

鹿児島大学

附属図書館概要 2012



○巻頭言	2
○理念と基本目標	3
○運営体制と事務組織	4
○図書館サービス	5
附属図書館で利用できるサービス、サービス対象者数、開館日数、入館者数	5
入館者数の推移、館外貸出人数及び冊数、貸出冊数の推移	6
貸出期間と冊数、レファレンスサービス、複写サービス、図書の貸借	7
文献複写受付、文献複写依頼、情報リテラシー支援、図書館一般公開：学外者の利用	8
○図書資料の収集	9
配架場所別蔵書数、分野別蔵書構成	9
年間受入図書数、年間受入雑誌数	10
図書館資料費	11
図書購入費、雑誌・その他の消耗品的資料、電子的資料費	12
○コレクション	13
貴重書・古書籍等	13
海外大型コレクション、海外雑誌センター館	14
○中央図書館案内	15
○桜ヶ丘分館案内	17
○水産学部分館案内	18
○電子図書館への取り組み	19
附属図書館ホームページ	20
学術ポータル、特殊コレクション・貴重資料等の電子化	21
鹿児島大学リポジトリ	23
○貴重書公開事業	24
○平成23年度活動状況	27
○沿革抄	28
○歴代館長・分館長等	32
○交通アクセス	33
(参考資料)	
○附属図書館成長へのビジョン　クリエイティブ・ライブラリー2012	34



附属図書館長
野呂忠秀

前附属図書館長、井上佳朗法文学部教授の後任として、4月から館長を拝命致しました。この場を借りて、まずは就任のご挨拶を申し上げます。

当附属図書館は、鹿児島大学の創立以来、歴代図書館長や教職員のご尽力により今日の立派な施設を誇るまでに発展しました。かつて、某有名週刊誌に「知の棺桶」とその劣悪な環境を酷評された旧図書館でしたが、現在の本館は鹿児島大学の誇る立派な施設となり「知のランドマーク」となりました。私は、水産学部の教員として海洋生物学の研究をしておりますが、海外からの来訪者を、この附属図書館に案内し、そこに収蔵されている『チャレンジャー-学術探検研究報告（イギリス海軍のチャレンジャー号が1872年～1876年に世界周航した際に収集した生物や地学資料の研究報告書）』や、『シボガ学術探検研究報告（オランダが1899年～1900年におこなったインドネシアやマレーシアの海洋生物等の調査報告書）』の原本を、鹿児島大学の誇る「宝」として誇らしげに見せてあげたものでした。

附属図書館では、「附属図書館の理念と使命（平成18年）」や、「第2期中期計画における附属図書館の基本目標（平成21年）」を発表し、その運営の指針として参りました（本誌 p.3）。その後、井上前館長により、「附属図書館成長へのビジョン2012『附属図書館将来構想—クリエイティブ・ライブラリー Creative Library (2012)』」がまとめられています。

この『クリエイティブ・ライブラリー』では、附属図書館の今後の方向性と、それに基づく今後のビジョンを具体的に展開したものであり、図書館職員の総意を反映して作られたものです。それによれば、附属図書館を“出会い（新しい知識-、新しい人-、新しい自己-との出会い）”と、“知的コミュニケーション”の場と位置づけ、学習・教育支援や研究支援、学術情報の効果的利用体制の構築を行おうとする将来構想を提唱しています（本誌 34 p）。

今後は、この将来構想を設計図として、館長他図書館職員が一致協力して、さらなる進化を図りたいと考えておりますが、そのためには、教育センター等学内の大学共同利用施設や学部大学院との協力も必要でしょう。また、桜ヶ丘分館や水産学部分館も含め、職員が生き甲斐をもって図書館の運営にあたる職場環境の更なる充実にも心を配るつもりです。

大学附属図書館として、学生の教育支援や、研究者への学術情報提供に務めることは当然のことです。それに加えて、学部や研究室や専門分野の枠を超えた教職員や学生が、自由に出入りできる“研究者のための知的サロン”が、附属図書館の中に大学文化として育まれることも、新米館長の描く夢です。

平成24年6月

附属図書館の理念と使命

■鹿児島大学附属図書館は、鹿児島大学の基本理念に基づき、高等教育と学術研究活動を支える重要な学術情報基盤としての役割を担う。また、鹿児島大学附属図書館の特色をいかした学術資料の収集と図書館サービスを行うため、次の使命をもつ。

1. 教育、研究および学習に関わる学術資料の収集、保存、組織化を行う。
2. 学生が、学術資料を利用して、自ら学習する環境を提供する。
3. 学生・教員及び一般市民が、学術資料を利用して教育・研究活動を行う環境を提供する。
4. 学術資料・情報活用を主眼とした情報リテラシー教育を支援する。
5. 本学及び地域で生産される学術資料を収集・保存し、電子化して公開する。
6. 本学で所蔵する学術資料及び貴重資料の公開等を通じて、地域の文化振興に貢献する。
7. 農学系外国雑誌センター館として関連資料の収集に努め、全国共同利用に寄与する。
8. 図書館サービス向上のため、他大学図書館等との相互協力を図る。

第2期中期計画における附属図書館の基本目標

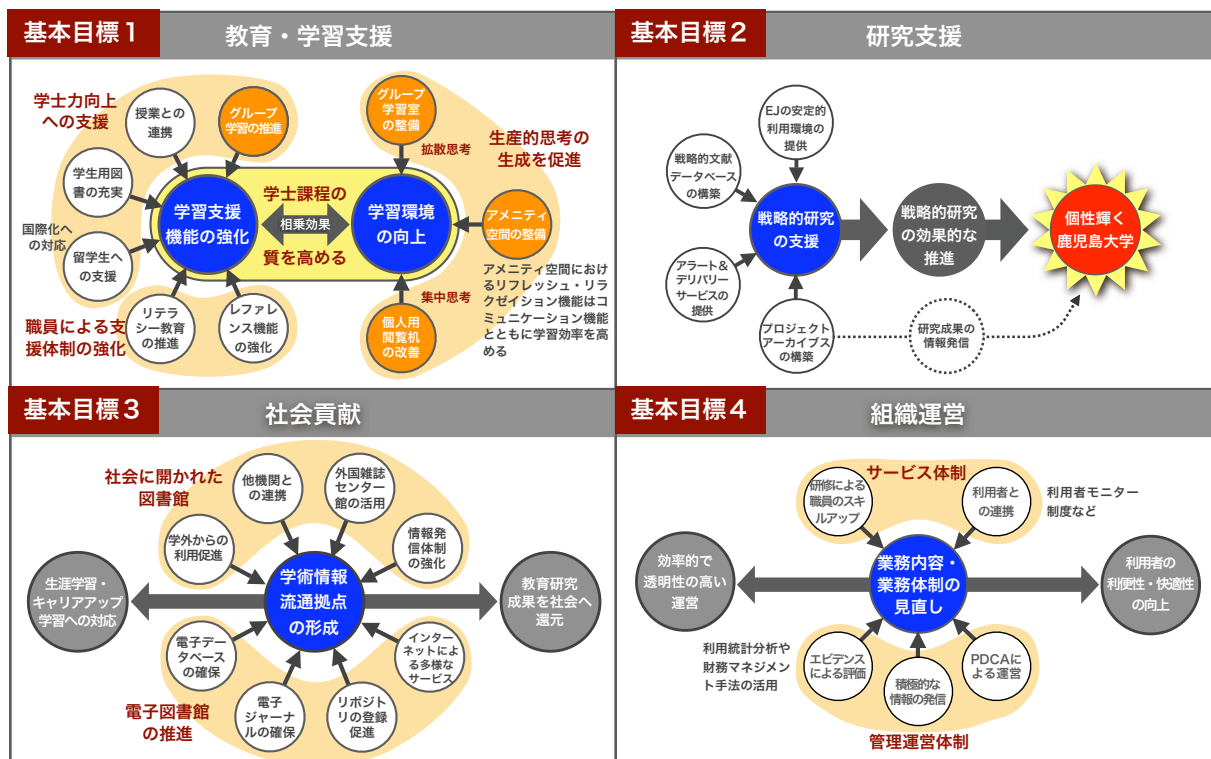
■附属図書館の基本理念・使命および鹿児島大学の中期目標・計画に沿って、閲覧中心型図書館から学習支援型図書館へ脱皮する。授業との連携を強め、専門家の目を通して収集・整理された良質な学術情報をベースに、他者とのコミュニケーションやディベートを媒介としたグループ学習を促進させ、知識の活用能力の向上に寄与する。また学術情報の発信・流通を促進させ、本学における戦略的テーマの推進とともに、地域における生涯学習、キャリアアップ学習を支援する体制を整える。

基本目標1：学習支援機能の強化と学習環境の向上により教育における学術情報の有効活用を促進する。

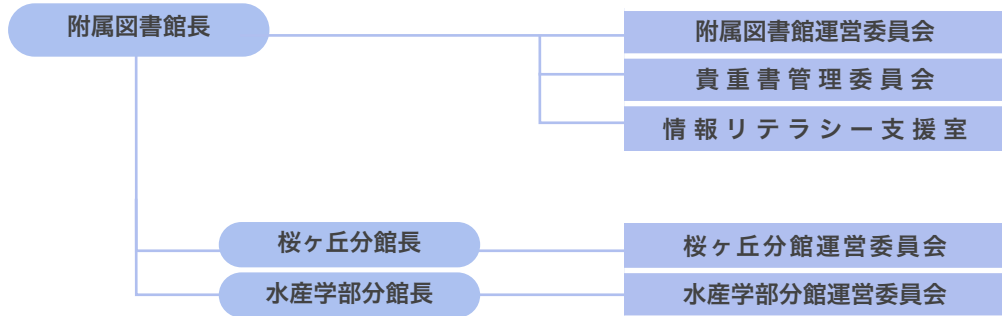
基本目標2：本学の戦略的研究テーマの推進をサポートするために、学術情報の効果的な収集・提供体制を強化する。

基本目標3：本学で生み出された学術情報を積極的に発信するとともに鹿児島県における学術流通促進の拠点として整備する。

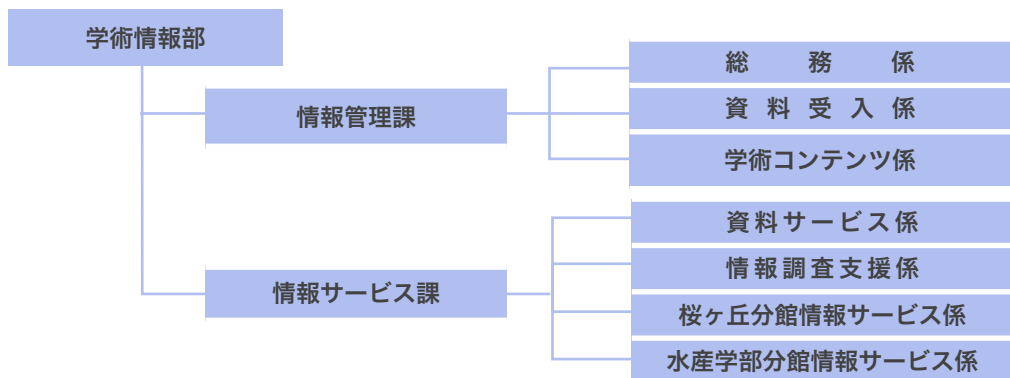
基本目標4：業務内容・業務体制の見直しにより、利用者の利便性と快適性の向上を図り、効率的かつ透明性の高い運営に努める。



■運営体制



■事務組織



■職員配置（現員）

（平成24年6月1日現在）

		一般職員	非常勤職員	計	資格取得者	
					司書	司書補
学術情報部長		1		1	1	
情報管理課	課長	1		1		
	課長代理	1		1		
	総務係	2	1	3		
	資料受入係	2	2 (2)	4	1	
	学術コンテンツ係	3		3	2	
情報サービス課	課長	1		1	1	
	課長代理	1		1	1	
	資料サービス係	2	2 (1)	4	3	
	情報調査支援係	4	2 (1)	6	3	1
	桜ヶ丘分館情報サービス係	3	4 (2)	7	4	
	水産学部分館情報サービス係	2	1	3	2	1
計		23	12 (6)	35	18	2

注：（ ）内人数はパート・短時間勤務者

■附属図書館運営委員会委員（平成24年4月1日現在）

委員長	附属図書館長	野呂忠秀	水産学部教授	前田広人
委員	桜ヶ丘分館長	鳥居光男	共同獣医学部准教授	矢吹 映
	水産学部分館長	板倉隆夫	大学院司法政策研究科教授	土居正典
	法文学部教授	井原慶一郎	大学院臨床心理学研究科教授	平川忠敏
	教育学部准教授	久保田治助	大学院医歯学総合研究科教授	小澤政之
	医学部教授	大友優子	大学院理工学研究科（理学系）准教授	笠井聖仙
	歯学部准教授	大西智和	大学院理工学研究科（工学系）准教授	二宮公紀
	農学部准教授	一谷勝之		



本学附属図書館で利用できるサービス

■本・雑誌を探す・借りる

鹿児島大学図書館にある本・雑誌を探す
 全国の大学図書館にある本・雑誌を探す
 海外にある本を探す
 出版社や書店の本を探す
 学内の本を借り出す
 学外の本を取り寄せる

■学術論文を探す

学内教員の学術論文を探す
 学外の学術論文を探す
 電子ジャーナルを利用する＊
 新聞記事を探す

■学習支援を受ける（学生用）

情報リテラシー支援を受ける＊
 文献調査の支援を受ける
 レポート作成の支援を受ける

■授業支援を受ける（教員用）

情報リテラシーの出張授業を依頼する＊
 レポート作成支援授業を依頼する＊

■館内の施設・設備を利用する

研究個室を利用する＊
 グループ学習室を利用する＊
 パソコンを借りる＊
 ギャラリーを利用する＊

■その他のサービス

図書館にある資料をコピーする
 欲しい本を購入してもらう＊
 AV資料を利用する
 パソコン端末を利用する＊

＊印は学内者のみのサービスです。



サービス対象者数（平成23年度）

	学生				教職員			合計
	学部	大学院	その他	計	教員	職員他	計	
中央図書館	8,935	1,707	216	10,858	1,137	2,047	3,184	14,042
桜ヶ丘分館	1,499	486	105	2,090	423	1,316	1,739	3,829
水産学部分館	592	205	10	807	56	66	122	929

中央図書館：全学の学生・教職員



開館日数（平成23年度）

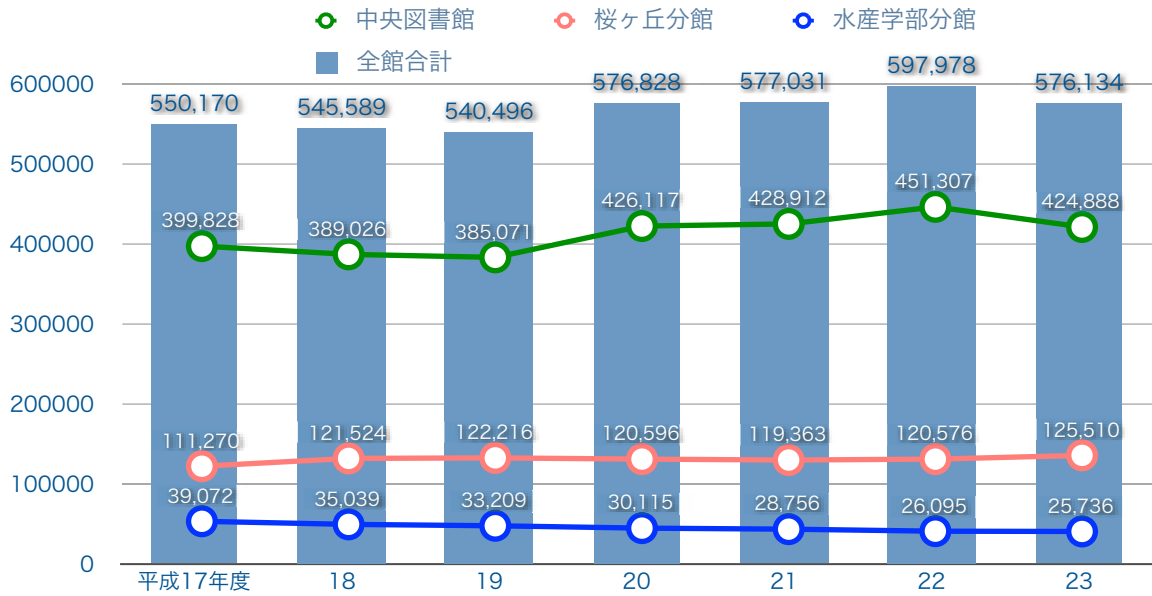
	開館日数					夜間開館(月一金)	
	平日	土曜	日曜	祝日	合計	日数	時間数
中央図書館	240	36	34	5	315	172	774
桜ヶ丘分館	241	47	46	9	343	231	924
水産学部分館	235	41	4	4	284	161	483



入館者数（平成23年度）

	平日			土曜	日曜	祝日	合計
	17:15まで	17:15以降	合計				
中央図書館	269,539	99,206	368,745	26,201	23,049	6,893	424,888
桜ヶ丘分館	74,909	32,745	107,654	6,897	8,895	2,064	125,510
水産学部分館	20,890	3,251	24,141	1,141	177	277	25,736
合計	365,338	135,202	500,540	34,239	32,121	9,234	576,134

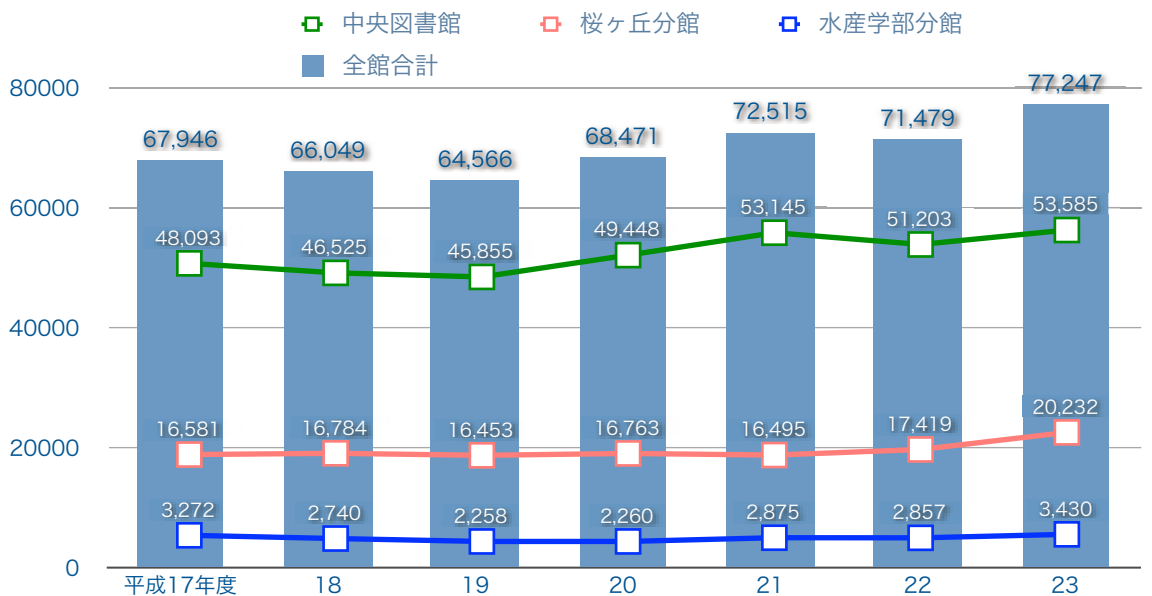
入館者数の推移



館外貸出人数及び冊数（平成23年度）

	人数				冊数			
	学生	教職員	学外者	計	学生	教職員	学外者	計
中央図書館	25,276	2,838	1,428	29,542	45,495	5,591	2,499	53,585
桜ヶ丘分館	10,009	1,720	0	11,729	16,447	3,785	0	20,232
水産学部分館	1,745	178	13	1,936	3,005	404	21	3,430
合計	37,030	4,736	1,441	43,207	64,947	9,780	2,520	77,247

貸出冊数の推移





貸出期間と冊数

	利用者区分	図書(注1)			雑誌(注2)	
		期間	冊数	更新回数	期間	冊数
中央図書館	学生	2週間	5冊	1回	2日間	3冊
	職員・大学院学生・名誉教授	1月以内	20冊			
	定(停)年又は勲奨により退職した職員	1月以内	10冊			
	山口大学共同獣医学部学生	2週間	5冊			
	一般利用者	2週間以内	3冊		不可	
桜ヶ丘分館	学生	2週間	5冊	1回	2日間	3冊
	職員・大学院学生・名誉教授		10冊			
	定(停)年又は勲奨により退職した職員		5冊			
	山口大学共同獣医学部学生		5冊			
水産学部分館	学生	2週間	5冊	1回	2日間	3冊
	職員・大学院学生・名誉教授	1月以内	20冊			
	定(停)年又は勲奨により退職した職員	1月以内	10冊			
	山口大学共同獣医学部学生	2週間	5冊			
	一般利用者	2週間以内	3冊		不可	

(注1)桜ヶ丘分館は製本雑誌を含む(但し、製本雑誌は更新できない)

(注2)桜ヶ丘分館は未製本雑誌。



レファレンスサービス (平成23年度)

	利用者別				内容別			
	学生	教職員	学外者	計	所在調査	事項調査	利用指導	計
中央図書館	1,274	352	510	2,136	1,029	288	819	2,136
桜ヶ丘分館	579	199	704	1,482	388	103	991	1,482
水産学部分館	189	38	22	249	146	18	85	249
合計	2,042	589	1,236	3,867	1,563	409	1,895	3,867



複写サービス (平成23年度)

	利用者別 (件数)			複写形態別 (枚数)		
	館内	相互利用	計	電子複写	マイクロフィルム	計
中央図書館	70	2,729	2,799	20,879	0	20,879
桜ヶ丘分館	5,572	2,786	8,358	50,251	0	50,251
水産学部分館	841	333	1,174	13,428	0	13,428
合計	6,483	5,848	12,331	84,558	0	84,558



図書の貸借 (平成23年度)

	貸出			借受		
	キャンパス間	学外	計	キャンパス間	学外	計
中央図書館	14	335	349	8	636	644
桜ヶ丘分館	12	24	36	8	30	38
水産学部分館	0	18	18	1	2	3
合計	26	377	403	17	668	685

文献複写受付（平成23年度）

	キャンパス間			学外			合計
	公費	私費	計	公費	私費	計	
中央図書館	104	54	158	1,359	1,212	2,571	2,729
桜ヶ丘分館	55	74	129	1,070	1,987	3,057	3,186
水産学部分館	22	3	25	135	198	333	358
合計	181	131	312	2,564	3,397	5,961	6,273

文献複写依頼（平成23年度）

	キャンパス間			学外				合計	
	公費	私費	計	国内		国外			計
				公費	私費	公費	私費		
中央図書館	71	76	147	1,287	878	10	0	2,175	2,322
桜ヶ丘分館	100	53	153	2,944	1,818	34	3	4,799	4,952
水産学部分館	10	2	12	32	18	0	0	50	62
合計	181	131	312	4,263	2,714	44	3	7,024	7,336

情報リテラシー支援（平成23年度）

学生の情報リテラシー支援や研究者の研究サポートとして以下のような支援を行った。

- 図書館利用案内：利用案内、施設案内
- 図書館情報活用ガイダンス：（授業科目）授業支援としての蔵書検索、文献検索等の説明及び演習
（図書館開催）蔵書検索、文献検索、レポート作成方法等の説明及び演習
- 利用説明会：文献データベースや電子ジャーナルの利用説明会

	図書館利用案内		図書館情報活用ガイダンス				利用説明会	
	回数	人数	授業科目		図書館開催		回数	人数
			回数	人数	回数	人数		
中央図書館	13	870	53	1,737	0	0	0	0
桜ヶ丘分館	3	184	1	86	5	189	2	50
水産学部分館	—	—	—	—	—	—	—	—

図書館の一般公開：学外者の利用（平成19年度から平成23年度）

附属図書館では、一般市民の生涯学習を支援するために図書館サービスを行っており、多くの市民に利用されている。中央図書館及び水産学部分館においては、館内に配置している資料の閲覧、参考調査、文献複写等に加えて、図書の貸出を実施している。一般市民が直接来館し身分証明書等を提示して申し込めば、「図書館利用票」を発行し、貸出を行っている。

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
中央図書館	1,967	1,894	1,523	2,274	21,121
桜ヶ丘分館	1,020	1,169	1,137	1,234	1,362
水産学部分館	19	72	33	60	45
合計	3,006	3,135	2,693	3,568	22,528
学外者「図書館利用票」登録人数	316	377	340	382	948



配架場所別蔵書数（平成24年4月1日現在）

（冊数）

配架場所		図書（冊数）			雑誌（総種類数）			
		和漢書	洋書	合計	和漢書	洋書	合計	
中央図書館	図書館配架	447,939	180,053	627,992	16,713	7,289	24,002	
	研究用貸出	法学部・人文社会学研究科・ 司法政策研究科・臨床心理学研究科	50,563	13,747	64,310	1,518	607	2,125
		教育学部	116,401	28,740	145,141	2,161	601	2,762
		理学部	1,987	5,671	7,658	176	151	327
		工学部・理工学研究科	38,741	11,363	50,104	764	419	1,183
		農学部・連合農学研究科	37,689	2,981	40,670	551	298	849
		共通教育棟	43,776	28,649	72,425	395	377	772
		保健管理センター	150	32	182	13	0	13
		国際島嶼教育研究センター	978	4,239	5,217	37	18	55
		留学生センター	43	7	50	4	0	4
		総合研究博物館	821	170	991	26	8	34
		学術情報基盤センター	177	24	201	3	1	4
		生涯学習教育センター	78	0	78	2	0	2
		教育センター	235	33	268	9	4	13
		フロンティアイノベーション研究推進センター	21	6	27	8	8	16
		産学官連携推進機構	211	4	215	7	0	7
		埋蔵文化財調査室	284	34	318	15	0	15
		稲盛アカデミー	1,137	345	1,482	-	-	-
		鹿児島環境学	17	0	17	-	-	-
		小計	293,309	96,045	389,354	5,689	2,492	8,181
小計	741,248	276,098	1,017,346	22,402	9,781	32,183		
桜ヶ丘分館	図書館配架	74,670	62,790	137,460	3,584	2,277	5,861	
	研究用貸出 医歯学総合研究科・医学部・歯学部	32,991	18,054	51,045	688	792	1,480	
	小計	107,661	80,844	188,505	4,272	3,069	7,341	
水産学部分館	図書館配架	23,076	7,095	30,171	2,379	1,179	3,558	
	研究用貸出	25,767	7,339	33,106	310	94	404	
	小計	48,843	14,434	63,277	2,689	1,273	3,962	
合計	図書館配架	545,685	249,938	795,623	22,676	10,745	33,421	
	研究用貸出	352,067	121,438	473,505	6,687	3,378	10,065	
	合計	897,752	371,376	1,269,128	29,363	14,123	43,486	



分野別蔵書構成（平成24年4月1日現在）

（冊数）

区分	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	合計	
和漢書	中央図書館	66,058	41,996	77,208	201,365	106,923	70,386	51,638	29,473	26,812	69,389	741,248
	桜ヶ丘分館	927	1,850	691	5,243	93,726	1,168	367	629	1,687	1,373	107,661
	水産学部分館	1,797	420	1,387	9,790	12,780	6,670	13,454	805	1,116	624	48,843
	小計	68,782	44,266	79,286	216,398	213,429	78,224	65,459	30,907	29,615	71,386	897,752
洋書	中央図書館	15,080	18,250	16,770	52,581	83,942	19,235	19,658	4,786	13,288	32,508	276,098
	桜ヶ丘分館	744	361	114	670	77,867	93	74	83	412	426	80,844
	水産学部分館	457	101	237	708	6,005	2,221	4,132	232	276	65	14,434
	小計	16,281	18,712	17,121	53,959	167,814	21,549	23,864	5,101	13,976	32,999	371,376
合計	85,063	62,978	96,407	270,357	381,243	99,773	89,323	36,008	43,591	104,385	1,269,128	

年間受入図書数（平成23年度）

（冊数）

配架場所		購入			製本			寄贈			合計		
		和漢書	洋書	合計	和漢書	洋書	合計	和漢書	洋書	合計	和漢書	洋書	合計
中央 図書館	図書館配架	3,412	378	3,790	48	257	305	1,168	127	1,295	4,628	762	5,390
	法学部	632	114	746	0	0	0	427	168	595	1,059	282	1,341
	教育学部	360	35	395	0	0	0	193	111	304	553	146	699
	理学部	54	5	59	0	0	0	0	0	0	54	5	59
	工学部	63	6	69	10	0	10	14	32	46	87	38	125
	農学部	139	14	153	0	0	0	0	0	0	139	14	153
	人文社会科学研究科	87	27	114	0	0	0	0	0	0	87	27	114
	臨床心理学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	司法政策研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	連合農学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	共通教育等	242	18	260	0	0	0	1	0	1	243	18	261
	保健管理センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	国際島嶼教育研究センター	86	1	87	0	0	0	0	0	0	86	1	87
	留学生センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総合研究博物館	10	0	10	0	0	0	0	0	0	10	0	10
	学術情報基盤センター	17	3	20	0	0	0	0	0	0	17	3	20
	生涯学習教育研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	教育センター	35	6	41	0	0	0	0	0	0	35	6	41
	ポリアライズ研究推進センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	産学官連携推進機構	15	0	15	0	0	0	0	0	0	15	0	15
	埋蔵文化財調査室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
稻盛アカデミー	62	0	62	0	0	0	0	0	0	62	0	62	
鹿児島環境学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小計	1,802	229	2,031	10	0	10	635	311	946	2,447	540	2,987	
小計	5,214	607	5,821	58	257	315	1,803	438	2,241	7,075	1,302	8,377	
桜ヶ丘 分館	図書館配架	1,333	64	1,397	81	359	440	46	5	51	1,460	428	1,888
	研究用貸出 歯学部総合研究科・医学部・歯学部	175	71	246	159	152	311	6	1	7	340	224	564
	小計	1,508	135	1,643	240	511	751	52	6	58	1,800	652	2,452
水産学部 分館	図書館配架	512	67	579	155	42	197	119	6	125	786	115	901
	研究用貸出 水産学部	4	4	8	0	0	0	0	0	0	4	4	8
	小計	516	71	587	155	42	197	119	6	125	790	119	909
合計	図書館配架	5,257	509	5,766	284	658	942	1,333	138	1,471	6,874	1,305	8,179
	研究用貸出	1,981	304	2,285	169	152	321	641	312	953	2,791	768	3,559
	合計	7,238	813	8,051	453	810	1,263	1,974	450	2,424	9,665	2,073	11,738

年間受入雑誌数（平成23年度）

（種類）

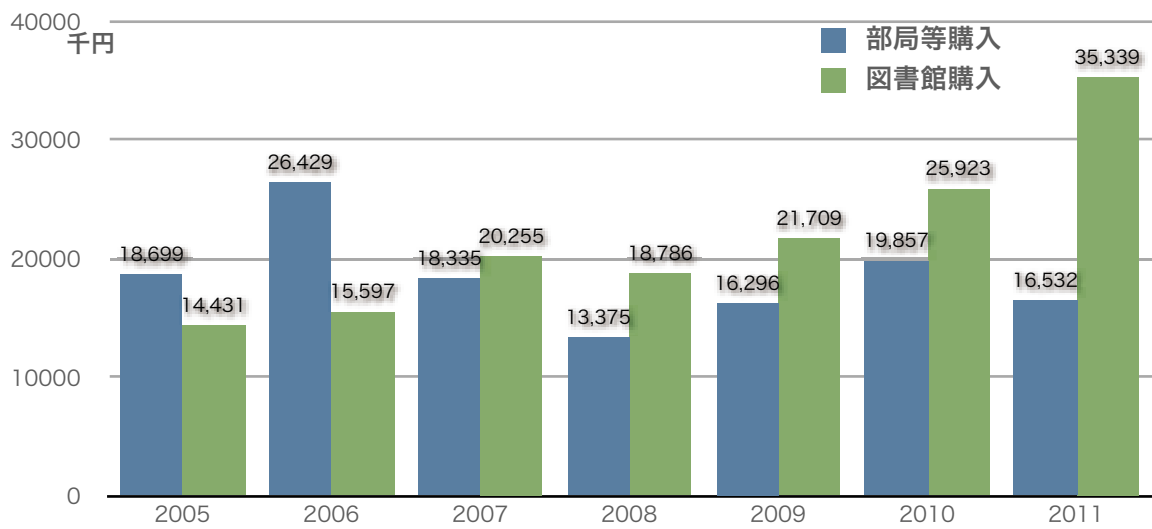
配架場所		購入			寄贈			合計		
		和漢書	洋書	合計	和漢書	洋書	合計	和漢書	洋書	合計
中央 図書館	図書館配架	273	331	604	2,239	206	2,445	2,512	537	3,049
	法学部	405	190	595	15	3	18	420	193	613
	教育学部	190	75	265	3	0	3	193	75	268
	理学部	10	4	14	0	0	0	10	4	14
	工学部	71	22	93	0	0	0	71	22	93
	農学部	188	41	229	0	0	0	188	41	229
	人文社会科学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	臨床心理学研究科	5	3	8	0	0	0	5	3	8
	司法政策研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	連合農学研究科	2	0	2	0	0	0	2	0	2
	共通教育等	35	21	56	0	1	1	35	22	57
	保健管理センター	12	0	12	0	0	0	12	0	12
	国際島嶼研究センター	3	7	10	0	0	0	3	7	10
	留学生センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総合研究博物館	7	2	9	0	0	0	7	2	9
	生涯学習教育研究センター	2	0	2	0	0	0	2	0	2
	教育センター	0	1	1	0	0	0	0	1	1
	ポリアライズ研究推進センター	3	3	6	0	0	0	3	3	6
	産学官連携推進機構	1	0	1	0	0	0	1	0	1
	小計	934	369	1,303	18	4	22	952	373	1,325
	小計	1,207	700	1,907	2,257	210	2,467	3,464	910	4,374
桜ヶ丘 分館	図書館配架	56	43	99	429	63	492	485	106	591
	研究用貸出 歯学部総合研究科・医学部・歯学部	275	253	528	1	5	6	276	258	534
	小計	331	296	627	430	68	498	761	364	1,125
水産学部 分館	図書館配架	43	12	55	314	46	360	357	58	415
	研究用貸出 水産学部	29	6	35	7	0	7	36	6	42
	小計	72	18	90	321	46	367	393	64	457
合計	図書館配架	372	386	758	2,982	315	3,297	3,354	701	4,055
	研究用貸出	1,238	628	1,866	26	9	35	1,264	637	1,901
	合計	1,610	1,014	2,624	3,008	324	3,332	4,618	1,338	5,956

図書館資料費（平成23年度）

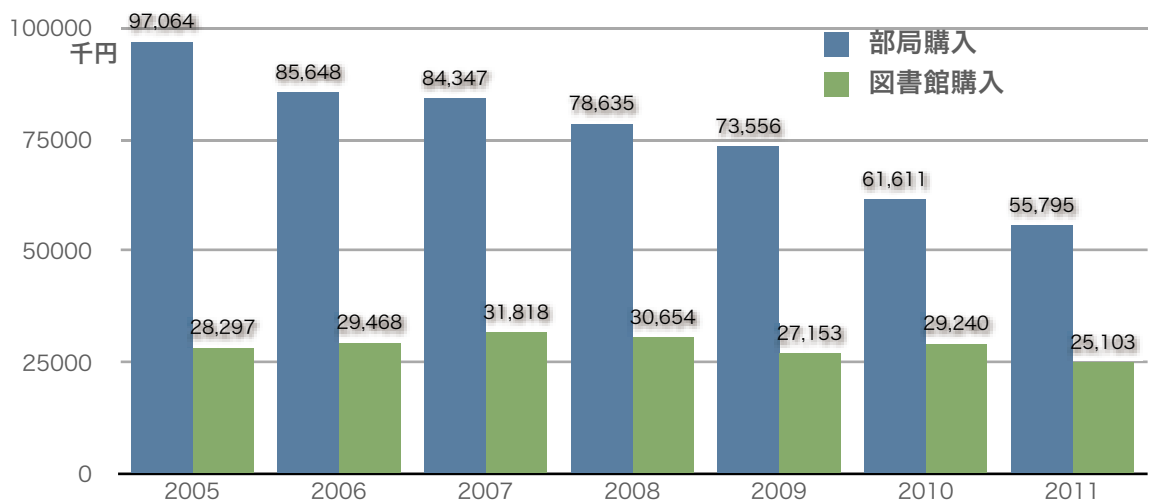
（千円）

予算区分		図書購入費			雑誌・その他の消耗品の資料			製本費			電子的資料費			合計		
		和書	洋書	計	和書	洋書	計	和書	洋書	計	和書	洋書	計	和書	洋書	計
中央 図書館	図書館	18,290	5,145	23,435	2,955	12,373	15,328	17	345	362	1,513	134,980	136,493	22,775	152,843	175,618
	法文学部	5,066	1,723	6,789	5,240	3,846	9,086	0	0	0	0	0	0	10,306	5,569	15,875
	教育学部	1,045	427	1,472	1,783	2,270	4,053	0	0	0	0	0	0	2,828	2,697	5,525
	理学部	185	2,477	2,662	414	956	1,370	0	0	0	0	4,165	4,165	599	7,598	8,197
	工学部	455	50	505	1,393	2,390	3,783	64	13	77	0	0	0	1,912	2,453	4,365
	農学部	562	46	608	2,079	1,613	3,692	0	0	0	0	0	0	2,641	1,659	4,300
	人文社会科学研究科	69	0	69	0	0	0	0	0	0	0	0	0	69	0	69
	司法政策研究科	216	40	256	923	2,579	3,502	0	0	0	0	0	0	1,139	2,619	3,758
	臨床心理学研究科	10	0	10	78	322	400	0	0	0	0	0	0	88	322	410
	連合農学研究科	0	0	0	81	0	81	0	0	0	0	0	0	81	0	81
	保健管理センター	0	0	0	163	0	163	0	0	0	0	0	0	163	0	163
	国際島嶼研究センター	428	0	428	212	309	521	0	0	0	0	0	0	640	309	949
	留学生センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総合研究博物館	48	0	48	91	67	158	0	0	0	0	0	0	139	67	206
	学術情報基盤センター	51	17	68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51	17	68
	生涯学習教育研究センター	0	0	0	17	0	17	0	0	0	0	0	0	17	0	17
	教育センター	509	144	653	0	2	2	0	0	0	0	0	0	509	146	655
	メディア化推進センター	0	0	0	35	58	93	0	0	0	0	0	0	35	58	93
	産学官連携推進機構	12	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	12
	産学官連携推進機構 (ルネサンスアカデミー)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
産学官連携推進機構 (地財)	39	0	39	24	0	24	0	0	0	0	0	0	63	0	63	
VBL	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
稲盛アカデミー	193	0	193	0	0	0	0	0	0	0	0	0	193	0	193	
鹿児島環境学	52	6	58	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52	6	58	
埋蔵文化財調査室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小計	8,940	4,930	13,870	12,533	14,412	26,945	64	13	77	0	4,165	4,165	21,537	23,520	45,057	
計	27,230	10,075	37,305	15,488	26,785	42,273	81	358	439	1,513	139,145	140,658	44,312	176,363	220,675	
桜ヶ丘 分館	図書館	8,845	697	9,542	625	7,677	8,302	123	410	532	0	0	0	9,593	8,784	18,376
	医歯学総合研究科・ 医学部・歯学部	1,411	1,011	2,422	5,926	20,768	26,694	236	363	599	0	589	589	7,573	22,731	30,304
	病院	169	65	234	1,024	363	1,387	6	0	6	0	1,545	1,545	1,199	1,973	3,172
	小計	1,580	1,076	2,656	6,950	21,131	28,081	242	363	605	0	2,134	2,134	8,772	24,704	33,476
	計	10,425	1,773	12,198	7,575	28,806	36,383	365	773	1,137	0	2,134	2,134	18,365	33,488	51,852
水産学部 分館	図書館	1,603	759	2,362	424	1,049	1,473	169	94	263	0	0	0	2,196	1,902	4,098
	部局	6	0	6	400	369	769	0	0	0	0	0	0	406	369	775
	計	1,609	759	2,368	824	1,418	2,242	169	94	263	0	0	0	2,602	2,271	4,873
合計	図書館	28,738	6,601	35,339	4,004	21,099	25,103	309	849	1,157	1,513	134,980	136,493	34,564	163,529	198,092
	部局	10,526	6,006	16,532	19,883	35,912	55,795	306	376	682	0	6,299	6,299	30,715	48,593	79,308
	計	39,264	12,607	51,871	23,887	57,011	80,898	615	1,225	1,839	1,513	141,279	142,792	65,279	212,122	277,400

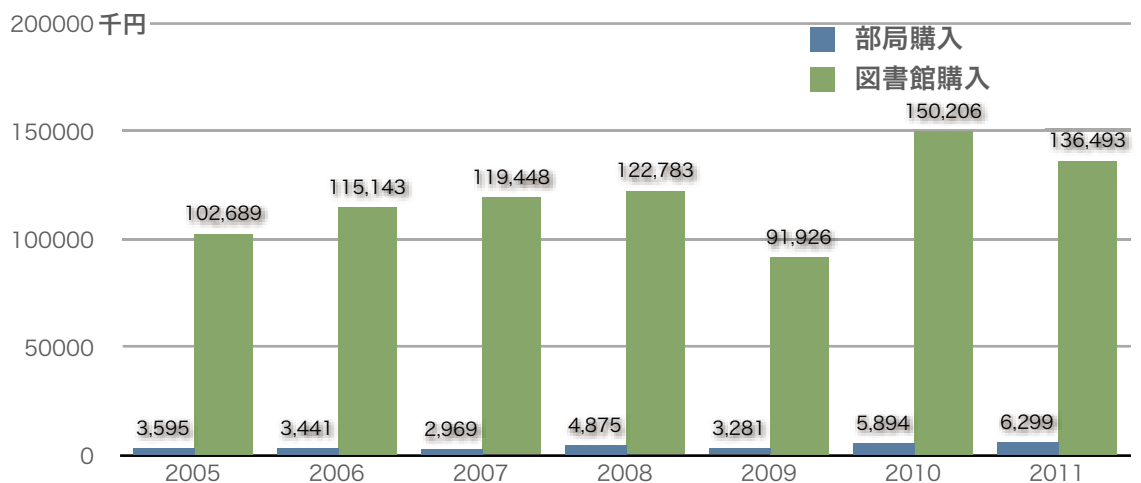
図書購入費



雑誌・その他の消耗品的資料



電子的資料費





貴重書・古書籍等

文庫名	内容等	受入年度
玉里文庫	島津久光及び玉里島津家の旧蔵書 久光の直筆本、島津家編輯本、和漢書の写本類、薩摩藩関係史誌、幕末洋学関係翻訳書の写本等 18,730冊 〔配架場所〕 中央図書館 〔目録〕 玉里文庫目録 昭和41年刊 玉里文庫漢籍目録 平成6年刊	昭和26年
岩元文庫	旧制第一高等学校教授であった岩元禎氏の旧蔵書 漢籍と文学・哲学関係の洋書 漢籍4,515冊、洋書826冊 〔配架場所〕 中央図書館 〔目録〕 岩元文庫目録 昭和43年刊	昭和30年
松本文庫	旧制第八高等学校漢文学教授であった松本亦一氏の旧蔵書 漢籍と和書、医書を多く含む 2,186冊 〔配架場所〕 中央図書館 〔目録〕 松本文庫目録 昭和59年刊	昭和29年
小北文庫	旧制鹿児島高等農林学校長小出満二氏が渡豪中に実業家北村寅之助氏の助力を得て収集し、後に同校図書館に寄贈したオーストラリア、太平洋諸島関係洋書 686冊 〔配架場所〕 中央図書館 〔目録〕 小北文庫目録 昭和45年刊	大正9年
小野文庫	元法政大学教授小野武夫博士の旧蔵書 農業経済、農業史、地方史を中心とするコレクション 4,127冊 〔配架場所〕 中央図書館 〔目録〕 小野文庫目録 昭和37年刊	昭和25年
鹿児島県地券台帳	明治15年鹿児島県における地券発行原簿のコレクション 出水、川辺、揖宿、肝属、大隅、熊毛、馭謨、臼杵の各郡が比較的まとまっている。附属資料として共有地台帳、地価修正一筆限帳等が含まれる2,944冊 〔配架場所〕 中央図書館	昭和47年

文書	点数	文書	点数	文書	点数
市来家文書	105点	川田家文書	116点	木脇家文書	18点
山田家文書	30点	寺尾家文書	387点	伊集院家文書	17点
有馬家文書	61点	志々目家文書	37点	長野家文書	141点
斑目家文書	17点	伊勢家文書	695点	新納家文書	122点
肝付家文書	65冊	八田家文書	2巻(13点)		

※書名リストについては、図書館ホームページから閲覧できます。

海外大型コレクション

コレクション名	内容等	受入年度
Siboga-Expeditie,1899-1900 (シボガ学術探検研究報告)	1899年から1900年にかけて、東インド諸島(現在のインドネシア諸島)海域でオランダの蒸気船シボガ号により行われた学術探検航海の報告書147冊(オリジナル)	昭和54年
Challenger expedition : report of the scientific results of the voyage of H.M.S. Challenger during the years of 1872-1876 (チャレンジャー-学術探検研究報告)	1872年から1876年にかけて、W.Thomson卿率いる調査隊がイギリス軍艦チャレンジャーにより大西洋、太平洋、南極海域で行った海洋調査の報告書50冊(オリジナル)	昭和59年
Collection of dissertations in marine social science,1952-1985 (海洋社会科学学位論文コレクション)	北米98大学において過去半世紀にわたって受理された海洋社会科学関係学位論文集300冊(リプリント)	昭和60年
TheTimes;417 original daily editions including all articles on Japan, 1852-1877 (タイムズ:幕末から明治初期の日本に関する記事)	ペリー来航から西南戦争までの明治維新前後27年間にタイムズ紙に掲載された日本関係の記事を含む頁を収集したもの11冊(オリジナル)	平成3年
Serials on scietific expedition (海洋学術探検コレクション)	20世紀初めから後半にかけて世界の主要海域において行われた海洋調査の報告でガラテア号世界周航探検報告、国際インド洋調査報告、グレートバリアリーフ学術探検報告、アルバトロス号の世界周航深海探検報告等を含む13点(オリジナル)	平成5年
Islands and island cultures of the East and West (世界の島と文化に関するコレクション)	世界の400余りに及ぶ島嶼とその住民に関する資料のコレクション。ほとんどが民族学や人類学に関する英語の資料で、スコットランド周辺島嶼とアジア太平洋熱帯・亜熱帯多島域に関するものが多い。1,874点(オリジナル)	平成11年

外国雑誌センター館

鹿児島大学附属図書館は外国雑誌センター館の一つとして、農学系の外国雑誌を中心に収集し、全国共同利用のためのサービスを提供している。平成23年度は409タイトルの雑誌を購入した。

■外国雑誌センター館とは

文部科学省(当時は文部省)は、昭和52年から、研究者が必要とする文献を日本国内で入手できるよう、外国雑誌センター館を指定し、国内未収集の外国雑誌を分野別に分担収集するという施策を講じてきた。

現在、4分野、9大学図書館が「外国雑誌センター館」として指定されている。

◇外国雑誌センター館(メンバー)一覧

農学系 … 鹿児島大学、東京大学
 医学・生物学系 … 大阪大学、東北大学、九州大学
 理工学系 … 東京工業大学、京都大学
 人文・社会科学系 … 一橋大学、神戸大学



[場 所]
〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21番35号
TEL 099-285-7415 FAX 099-259-3442、285-7413

[開館時間]
月～金曜日 8:30～21:30
土・日曜日 10:00～18:00

[休 館 日]
・国民の祝日 ・年末年始等(12月27日～1月3日)

1階

カウンター
レファレンスデスク
パソコン端末室
閲覧席
AVコーナー (ビデオ、DVD、
放送大学視聴装置)
大学歴史展示室
ギャラリー‘アトリウム’

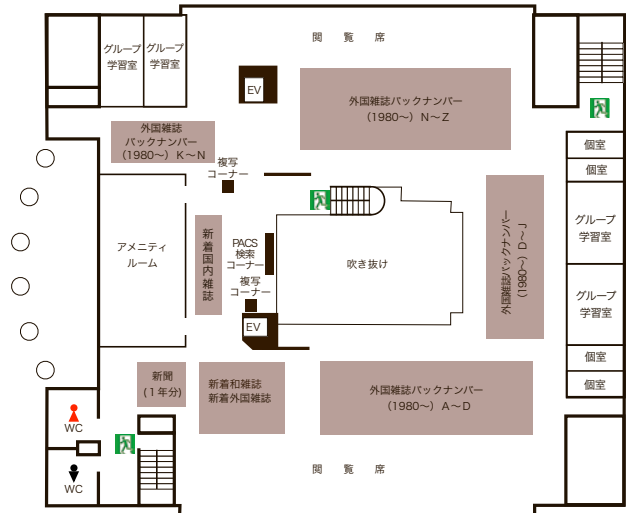
- 参考図書
- 新聞
- 郷土資料
- 鹿児島大学刊行物
- 二次資料
- 年鑑・白書
- 視聴覚資料・マイクロフィルム



2階

閲覧席
グループ学習室
研究個室
アメニティルーム

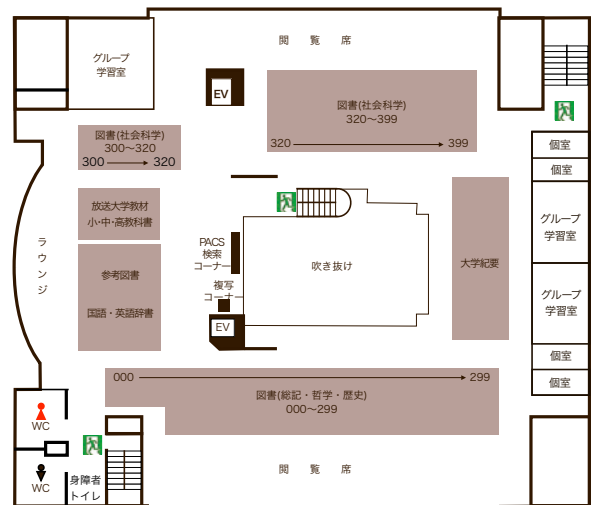
- 外国雑誌バックナンバー (1980年以降)
- 新着雑誌 (国内・外国)
- 新聞 (1年分)



3階

総合案内デスク
閲覧席
グループ学習室
研究個室

- 図書 (総記・哲学・歴史・社会科学)
- 大学紀要
- 参考図書 国語・英語辞典
- 放送大学教材
- 小・中・高教科書



[施設]

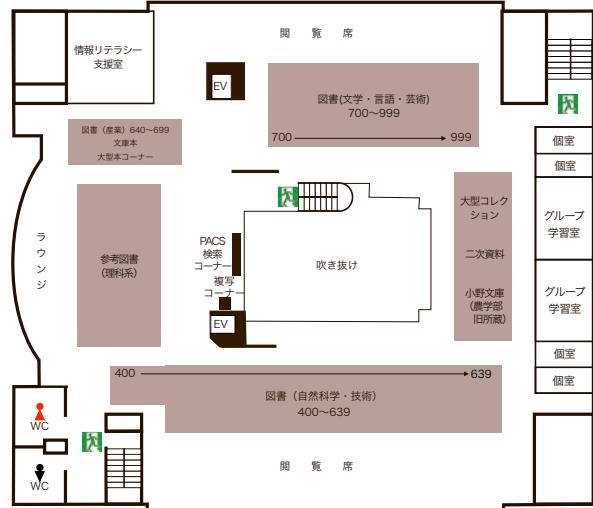
・鉄筋地上5階地下2階建(平成8年12月竣工)
 ・延床面積 12,697㎡
 閲覧スペース 4,459㎡ サービススペース 2,044㎡
 収蔵スペース 2,359㎡ 歴史資料展示室 140㎡
 事務室等 775㎡ その他 2,920㎡

・総座席数 910席
 ・収容可能冊数 972,000冊

4階

個人閲覧席
 グループ学習室
 研究個室
 情報リテラシー支援室

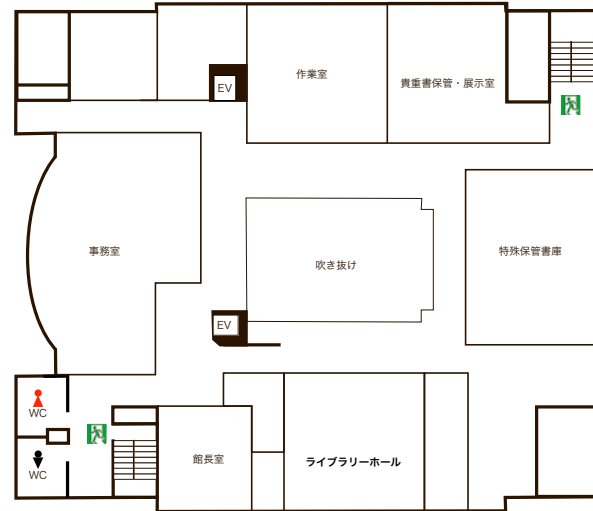
- 図書(産業・技術・自然科学)
- 参考図書
- 図書(文学・言語・芸術)
- 文庫本・大型本
- 小野文庫
- 二次資料
- 大型コレクション



5階

ライブラリーホール
 貴重書展示・保管室
 事務管理部門

*この階の入室には許可が必要です。



地下1階
 地下2階

雑誌書庫
 希用図書書庫

- 新聞(過去分原紙・縮刷版)
- 政府刊行物
- 外国雑誌(1979年以前および中国語・ハングル・キリル)
- 国内雑誌



カウンター



アメニティルーム



グループ学習室



情報リテラシー支援室



[場 所]
〒890-8532 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1
TEL 099-275-5205 FAX 099-275-5204

[開館時間]
月～金曜日 8:30～21:00
土・日曜日 10:00～18:00

[休 館 日]
・国民の祝日 ・年末年始等(12月27日～1月3日)

[施 設]

- ・鉄筋3階建（昭和52年4月竣工、昭和56年5月増築）
- ・延床面積 1,980㎡
- ・総座席数 158席
- ・閲覧スペース 1,229㎡
- ・収容可能冊数 192,000冊
- ・サービススペース 208㎡
- ・収蔵スペース 189㎡
- ・事務室等 211㎡
- ・その他 143㎡

1 階

受付カウンター
パソコン端末コーナー
新着雑誌展示コーナー
書庫（集密書架）
複写コーナー
アメニティルーム
分館長室

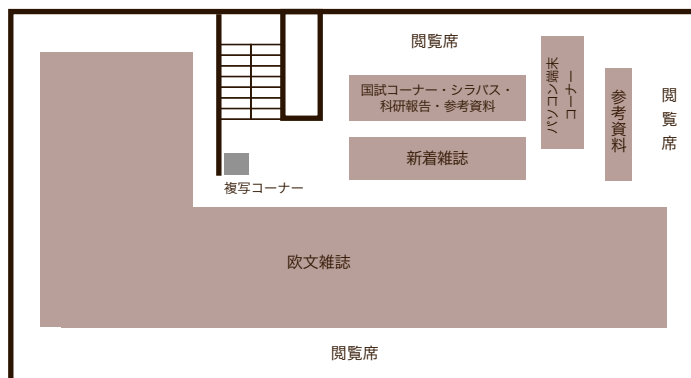
- 利用者用公開端末2台
- 出力用端末1台
- カラー複写機1台
- 新着雑誌（研究室配架分）
- 雑誌バックナンバー
- 稀用図書
- 自動販売機
- 自動貸出装置
- AV資料



2 階

開架閲覧室
パソコン端末コーナー
複写コーナー

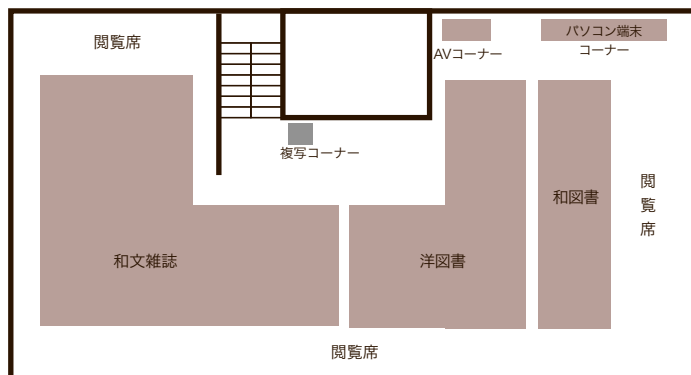
- 国試、シラバス、科研報告
- 参考図書
- 二次資料
- 新着雑誌
- 欧文雑誌バックナンバー
- 利用者用公開端末12台
- 出力用プリンター
- 複写機2台



3 階

開架閲覧室
パソコン端末コーナー
複写コーナー
AVコーナー

- 図書
- 和文雑誌バックナンバー
- 利用者用公開端末3台
- 複写機1台
- テレビ、DVDプレイヤー一体型ビデオ2台





[場 所]

〒890-0056 鹿児島市下荒田四丁目50番20号
T E L 099-286-4051 FAX 099-286-4053

[開館時間]

月～金曜日 8:30～20:00
土曜日 10:00～17:00

[休館日]

・日曜日、国民の祝日 ・年末年始等(12月27日～1月3日)

[施 設]

・鉄筋2階建(昭和45年2月竣工)

・延床面積

849㎡

閲覧スペース

307㎡

サービススペース

47㎡

収蔵スペース

233㎡

事務室等

113㎡

その他

149㎡

・総座席数

78席

・収容可能冊数

41,000冊

1階

カウンター

パソコン端末コーナー

新聞・新着雑誌コーナー

複写コーナー

特別資料室

分館長室、事務室

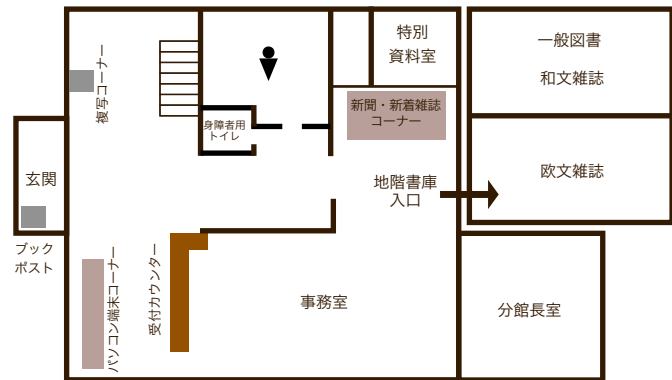
■利用者用公開端末4台

■CD-ROM視聴端末1台

■新聞、新着雑誌

■修士論文

■カラー複写機1台



2階

開架閲覧室

パソコン端末コーナー

グループ学習室(視聴覚室)

■図書、参考図書

■国内雑誌、大学紀要

■試験場報告等

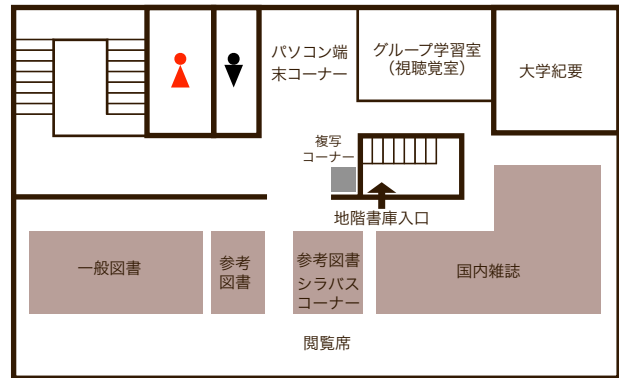
■利用者用公開端末8台

■出力用端末1台

■通信衛星(CS)放送
(BBC、CNN、放送大学)

■カラー複写機1台

■出力用プリンタ1台



地階

書庫

■稀用図書

■雑誌バックナンバー

水産学部分館内部

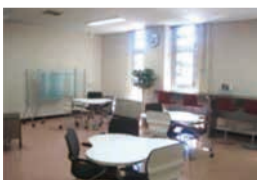


新聞・新着雑誌コーナー

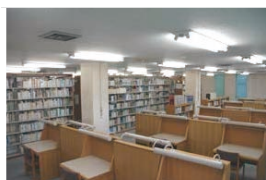


閲覧スペース

桜ヶ丘分館内部



アメニティルーム



閲覧スペース

学術情報ネットワークやキャンパス情報ネットワークの整備が進み、附属図書館もネットワークを介した高度な情報提供サービスの強化・充実に努めている。

業務システムの自動化はもとより、利用者に対しては、インターネットを通じた各種サービスを提供している。

●業務電算化の開始

◆昭和53年3月、日本電気ACOS-200を導入し、業務電算化を開始した。対象業務は中央図書館の受入業務(図書・雑誌の発注、受入、支払・予算管理等)及び運用業務(貸出・返却・予約等)とし、目録業務を除く図書館業務のトータルシステム化を実現した。

●第二期業務電算化：OPACサービス開始

◆昭和63年4月、図書館システムは情報処理センターのコンピュータシステム(IBM3081-K32)の一環としてIBMの図書館業務システムDOBIS/Eをベースに鹿児島大学図書館システムKINDを開発した。これは単に図書館業務のトータルシステム化を目指しただけでなく、利用者サービスの拡大を目標とした。情報処理センターのコンピュータ資源を共用することにより、キャンパス情報ネットワークを利用したOPAC(本学蔵書検索)、電子掲示板、利用案内、学外資料申込、貸出予約、電子メール等の先進的な情報サービスを実現した。

◆平成4年12月、情報処理センターのホスト・コンピュータはIBM3090/18Sに更新され、KINDもハード・ソフトウェアで強化された。同時にネットワーク環境も整備され、インターネット接続が可能となり、国内外の図書館や学術機関から情報を得ることが可能になった。

●第三期業務電算化：クライアント・サーバ型システム

◆平成8年1月、総合情報処理センターのシステムはUNIX-ワークステーションによるクライアント・サーバ型の機種に更新され、図書館システムは、UNIXサーバによる富士通ILIS/X-WRが導入された。

◆平成12年3月、総合情報処理センターの電算機システム更新に伴い、図書館システムは、WindowsNTサーバによるNTTデータのNALISが導入され、業務の一層の自動化が実現された。また、利用者端末は、これまでの20台から35台に増強され、端末自体の保全とネットワーク利用でのセキュリティが強化された。

◆平成17年2月、図書館業務システムを更新し多言語対応の性能を強化した。これにより蔵書検索システムにおける中国語書誌、韓国語書誌のデータへの対応を実現した。また、オンラインでの研究用図書(教員)申込サービスを開始した。

◆平成21年3月、図書館業務システムの更新に伴い、Mylibraryサービスを導入し、文献複写依頼等のオンラインサービスの充実を図った。

●キャンパス情報ネットワーク利用による文献情報検索サービス開始

◆平成6年8月、桜ヶ丘分館に文献情報検索システム(OPTI-NET)を導入し、キャンパス情報ネットワークを

利用したMEDLINE及び医学中央雑誌のサービスを開始した。

◆平成7年3月、中央図書館に文献情報検索システム(Silver Platter社、ERL: Electronic Reference Library)を導入し、MEDLINE、AGRICOLA等のデータベースのサービスを始めた。

◆平成9年2月、中央図書館に文献情報検索システム(ERL)を増設し、図書館ホームページからの文献情報検索サービスを開始した。新たにCurrent Contents、Life Science/Clinical Medicineのサービスを始めた。

◆平成10年11月、WindowsNTサーバによる文献情報検索システムを導入し、図書館ホームページからの医学中央雑誌、雑誌記事索引等の検索サービスを始めた。

◆平成14年10月、Web of Science(引用文献索引データベース)を導入し、提供を開始した。

◆平成14年5月、法律情報データベース
(LEX/DB Internet)

平成17年1月、LexisNexis Academic
(欧文総合データベース)

4月、新聞記事データベース(朝日)

平成18年4月、新聞記事データベース(南日本)

平成22年1月、ジャパンナレッジ・プラスを導入し、提供を開始した。

◆平成24年3月、Web of Science(引用文献索引データベース)のバックファイル10年分の整備を行った。

●電子図書館システムの導入

◆平成13年3月、電子的情報の収集・検索システム(電子図書館システム)を導入した。当システムは、平成12年度補正予算により全国10大学に措置されたものである。これにより、本学の電子図書館機能の利用環境は飛躍的に整備された。本学で導入したシステムの構成は以下のとおりである。

- 1.電子化情報データベースシステム
蔵書検索、貴重書検索、研究成果検索、学位論文検索、横断検索(Z39.50)、音楽資料閲覧
- 2.文献情報提供システム(ERLサーバ、CD-Terminalサーバ、ことといサーバ)
- 3.デジタルライブラリシステム(図書館向CD-ROM(DVD-ROM)視聴設備)
- 4.文献画像伝送システム(Epicwin7000導入)
- 5.利用者用公開端末(20台)

●電子ジャーナルサービスの導入と機能強化

◆平成11年3月から電子ジャーナルの収集と提供を開始し、平成14年1月に、複数の大学図書館等からなる電子ジャーナルコンソーシアム契約に拠る電子ジャーナルサービスを導入した。

◆平成17年6月、従来の電子ジャーナルサービスの機能を強化し、収録タイトル数の大幅な増強とOPENURLによる文献情報データベースとのリンクサービスを開始した。

◆平成23年3月、平成24年3月、Elsevier社のScienceDirect、SpringerLinkのバックファイルの整備を行った。

●電子書籍サービスの導入

◆平成22年度、NetLibrary（紀伊国屋書店）の電子書籍435点を購入した。

◆平成23年度、NetLibrary 438点購入、Maruzen eBook Library（丸善書店）107点を購入した。

◆平成24年4月現在、総計980点の電子書籍をサービスしている。

●鹿児島大学リポジトリ

◆国立情報学研究所の平成18年度委託事業として、鹿児島大学研究者の教育・研究成果を保存し、社会に広く公開することを目的としたリポジトリシステムを構築し、平成19年4月より運用を開始した。

●鹿児島県学術共同リポジトリ（KARN）

◆鹿児島県内の大学・高等専門学校等7機関が共同して教育・研究等の成果物や所蔵している貴重書等をインターネットを使って社会に公開・発信するシステム「鹿児島県学術共同リポジトリ」（愛称KARN：Kagoshima Academic Repository Network）を構築し、平成24年3月から運用を開始した。

●図書館ホームページ

◆平成8年1月、図書館ホームページを開設し、本学蔵書検索、利用案内等の情報発信を実現した。

◆平成13年12月、携帯電話対応版ホームページを開設した。

◆平成17年、WEBの管理システムソフトウェアCMS（コンテンツマネジメントシステム）「Xoops」を導入し、管理運用面が大幅に改善された。

◆平成24年4月、CMS（コンテンツマネジメントシステム）「MovableType」を導入し、バージョンアップをはかるとともに、ホームページを視覚的に見やすいデザインにリニューアルした。

● 附属図書館ホームページ (http://www.lib.kagoshima-u.ac.jp/)

平成8年1月、図書館ホームページを開設し、OPAC(本学蔵書検索)、利用案内等の情報発信を実現した。現在は文献データベース、電子ジャーナル、電子化された貴重資料等も提供している。この他オンラインによる文献複写サービス、図書の貸出予約サービス、取寄せサービス（学内の他のキャンパスの図書を取寄せ）を提供している。



● 携帯電話版図書館ホームページ (http://opac.lib.kagoshima-u.ac.jp/mobile/)

図書館ホームページの携帯電話対応版。

以下のメニューを提供している。

- 1.開館時間の案内
- 2.休館予定日
- 3.蔵書検索
- 4.予約・貸出状況の照会
- 5.貸出図書の延長申し込み

学術ポータル

●文献データベース

オンラインによる各種図書館サービスの受付のほか、文献データベース・電子ジャーナル、本学所蔵資料の電子化事業等、学術情報基盤の整備をすすめている。

データベース名	分野	収録期間	アクセス数
LEX/DB Internet	法律情報	****	10
LexisNexis	総合	****	無制限
Web of Science	総合	1980-	無制限
医学中央雑誌	医学	1983-	13
GeNiiで提供される各種データベース	総合	****	無制限
聞蔵II ビジュアル	朝日新聞	1945-	1
南日本新聞データベース	南日本新聞	1995-	20
ジャパナレッジ・プラスN	事典・辞書群	****	4

●電子ジャーナル

電子媒体による、雑誌論文のフルテキストを提供している。平成17年度からは、有料契約誌以外のタイトルについても積極的に収集し、平成24年4月現在の利用可能タイトル数は、約14,000種類となっている。

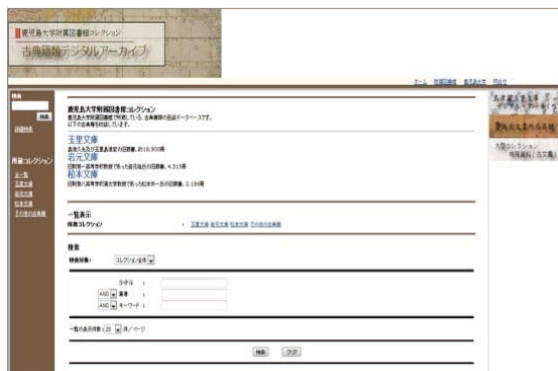
	名称	出版社等	タイトル数
有料誌	Sciverse ScienceDirect	Elsevier	2,193
	Wiley-Blackwell	Wiley	1,376
	SpringerLink	Springer	1,715
	Nature	Nature Publishing	1
	Science	American Assoc. Adv.	1
無料誌	Pubmed Central	The National Library of Medicine	328
	Directory of Open Access Journals	Free Accessタイトル	6,722
	Bioline International	Free Accessタイトル	26
	JSTAGE	Free Accessタイトル	1,358
	Highwire Press	Highwire	226

特殊コレクション・貴重資料等の電子化

●特殊コレクションのデータベース

附属図書館で所蔵している古書籍の目録、楽譜資料の画像・音声データ、学内で作成された文献目録を学外に向けて「電子化情報提供システム（平成13年3月導入）」として公開・提供している。

以下のメニューが利用可能。



[貴重書検索]

以下の古書籍についての所蔵目録データベース。

- ・玉里文庫：島津久光及び玉里島津家の旧蔵書（約18,900冊）*一部書籍については原本画像あり
- ・岩元文庫：旧制第一高等学校教授であった岩元禎氏の旧蔵書（和漢書：4,515冊）
- ・松本文庫：旧制第八高等学校漢文学教授であった松本亦一氏の旧蔵書（2,186冊）

●貴重書資料の電子化事業

電子図書館の機能の充実・強化に向けて、玉里文庫（島津久光及び玉里島津家の旧蔵書）資料の電子化をすすめている。平成16年度は特に資料的価値の高い絵図の中から5点を選び超高精細画像化を実現、インターネット上に公開し、画面上で自由に拡大・縮小・スクロールしながら閲覧することが出来る。現在も継続して原本の電子化とインターネット上での一般公開事業をすすめている。



年度	電子化した分野	点数	冊数
平成9年度	薩摩藩関係資料	146	707
平成10年度	国書及び絵図関係資料	76	539
平成11年度	洋学関係資料	137	585
平成12年度	有職故実関係資料	217	552

[収録資料]

- ・文政五年鹿児島城絵図（ぶんせいごねんかごしまじょうえず）
- ・三州割拠図（さんしゅうかつきよず）
- ・蝦夷闔境輿地全図（えぞこうきょうよちぜんず）
- ・御江戸大絵図（おおえどおおえず）
- ・琉球人行粧之図（りゅうききゅうじんぎょうしょうのず）

●貴重書公開展図録解題データベース



附属図書館で開催している貴重書公開事業の図録（パンフレット）に執筆・掲載された鹿児島大学教員の解説文を画像付きで公開している。

[おもな収録資料]

- 薩摩藩出版資料
 - ・成形図説（せいけいずせつ）
 - ・本草質問（ほんそうしつもん）
 - ・三国名勝図会（さんごくめいしょうずえ）
- 歴史書
 - ・通俗国史（つうぞくこくし）
 - ・島津国史（しまづこくし）
- 文芸書
 - ・源氏物語（室町末期写本）（げんじものがたり）
 - ・古今和歌集（近世初期写本）（こきんわかしゅう）

●奄美古文書所在目録データベース



鹿児島県歴史資料センター黎明館が平成14～16年度に実施した奄美群島歴史資料確認調査の結果を鹿児島大学附属図書館が平成18年度にデータベース化した。奄美地方の各機関に所蔵されている古文書類の所在情報、約8000件を収録している。

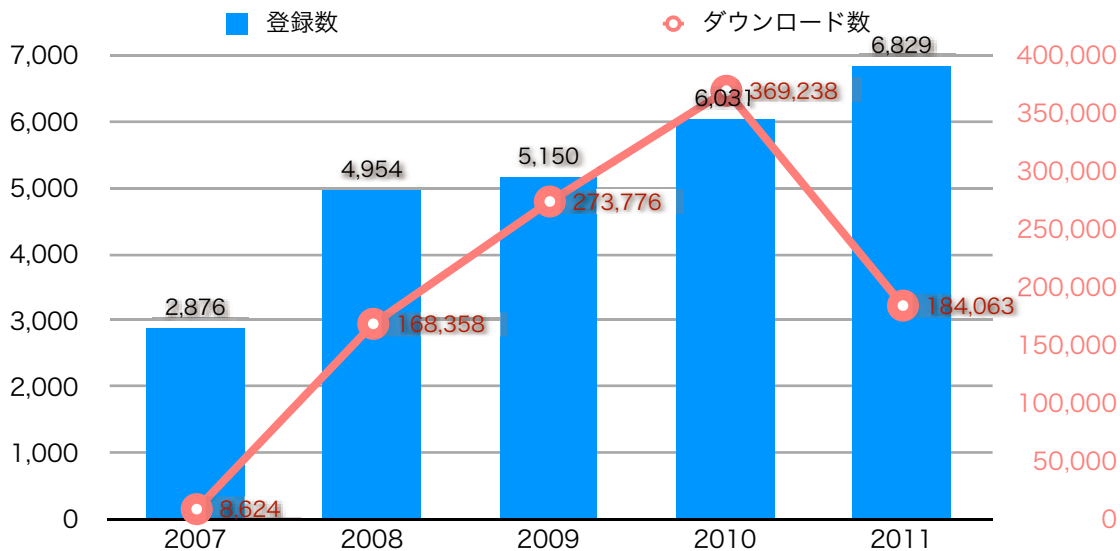
[おもな収録資料]






- 琉球王府時代資料
 - ・琉球王府辞令書（ノ口辞令、役人辞令）
- 薩摩藩時代資料
 - ・大島代官記
 - ・沖永良部島代官系図
- 米国軍政期資料
 - ・米国軍政府布告集

鹿兒島大学リポジトリ

鹿兒島大学では、学内の教員によって生み出された学術論文等を電子資料として登録・保存し、インターネットで無償公開する機関リポジトリを平成19年4月から運用しています。

大学の社会的責務である研究成果の社会への還元や教育・研究活動の説明責任を進める一環として、積極的に取り組んでいます。



回	テーマ	開催日	開催場所
第1回 (平成11年度)	薩摩の文化遺産 玉里文庫展	平成11年11月4日～10日	中央図書館
	<p>■ 記念講演会 演題・講師</p> <p>『玉里文庫の諸相—洋学から江戸文化まで—』 中山 右尚 (教育学部教授)</p> <p>『玉里文庫にみる大名文化と島津久光』 原口 泉 (法文学部教授)</p>	<p>平成11年11月6日</p> <p>平成11年11月7日</p>	<p>中央図書館</p> <p>中央図書館</p>
第2回 (平成12年度)	江戸のまなざし 薩摩の名所図会展	平成12年11月4日～9日	中央図書館
	<p>■ 記念講演会 演題・講師</p> <p>『玉里文庫の名所図会』 丹羽 謙治 (法文学部助教授)</p> <p>『三国名勝図会と新鹿児島百景』 原口 泉 (法文学部教授)</p>	<p>平成12年11月4日</p> <p>平成12年11月5日</p>	<p>中央図書館</p> <p>中央図書館</p>
	薩摩の文化遺産 玉里文庫展	平成12年11月17日～19日	鹿児島県立図書館奄美分館
	<p>■ 記念講演会 演題・講師</p> <p>『玉里文庫の諸相—洋学から江戸文化まで—』 中山 右尚 (教育学部教授)</p> <p>『玉里文庫と奄美資料』 原口 泉 (法文学部教授)</p>	<p>平成12年11月19日</p> <p>平成12年11月9日</p>	<p>鹿児島県立 大島高等学校 和親館</p>
第3回 (平成13年度)	江戸の趣味生活 薩摩の大名文化 重豪の時代展	平成13年10月24日～30日 平成13年11月8日～11日	中央図書館 川内市歴史資料館
	<p>■ 記念講演会 演題・講師</p> <p>『薩摩の植物図譜—「質問本草」について—』 高津 孝 (法文学部教授)</p> <p>『重豪時代の学藝—新出資料をめぐって—』 丹羽 謙治 (法文学部助教授)</p> <p>『島津重豪の生活文化—薩摩のハイカラ事情—』 原口 泉 (法文学部教授)</p> <p>『新田神社文書について』 日隈 正守 (教育学部助教授)</p>	<p>平成13年10月28日</p> <p>平成13年10月28日</p> <p>平成13年11月11日</p> <p>平成13年11月11日</p>	<p>中央図書館</p> <p>中央図書館</p> <p>川内市歴史資料館</p> <p>川内市歴史資料館</p>
第4回 (平成14年度)	玉里文庫の絵図・地図展 —絵図に見る幕末日本—	平成14年10月24日～27日 平成14年10月2日～4日	中央図書館 国分市シビックセンター
	<p>■ 記念講演会 演題・講師</p> <p>『江戸の滑稽絵本 —悦鼻蝦夷押領の世界—』 中山 右尚 (教育学部教授)</p> <p>『地図あれこれ』 塚田 公彦 (教育学部教授)</p> <p>『絵図の中の幕末日本』 原口 泉 (法文学部教授)</p> <p>『大隅国正八幡宮に関する一考察』 日隈 正守 (教育学部助教授)</p>	<p>平成14年10月27日</p> <p>平成14年10月27日</p> <p>平成14年11月4日</p> <p>平成14年11月4日</p>	<p>中央図書館</p> <p>中央図書館</p> <p>国分市 シビックセンター</p> <p>国分市 シビックセンター</p>
第5回 (平成15年度)	産業考古学と斉彬の時代	平成15年11月5日～9日 平成15年11月21日～28日	中央図書館 加世田市民会館
	<p>■ 記念講演会 演題・講師</p> <p>『幕末から明治初期の薩摩焼』 渡辺 芳郎 (法文学部助教授)</p> <p>『集成館事業を読み解く —産業考古学の視点から—』 長谷川 雅康 (教育学部教授)</p> <p>『新田八幡宮の阿多郡支配について』 日隈 正守 (教育学部助教授)</p> <p>『いろは歌の歴史世界 —歩く道・学ぶ道—』 原口 泉 (法文学部教授)</p>	<p>平成15年11月9日</p> <p>平成15年11月9日</p> <p>平成15年11月23日</p> <p>平成15年11月23日</p>	<p>中央図書館</p> <p>中央図書館</p> <p>加世田市民会館</p> <p>加世田市民会館</p>

回	テーマ	開催日	開催場所
第6回 (平成16年度)	江戸のまなざし 薩摩の名所図会展	平成16年11月17~21日 平成16年12月3~5日	中央図書館 出水市中央公民館
	<p>■ 記念講演会 演題・講師</p> <p>『興入れ道具としてのやまと絵』 下原 美保 (教育学部助教授)</p> <p>『子ども観が絵本の誕生に与えた影響 ー日本とイギリスを比較するー』 小谷 裕幸 (法文学部教授)</p> <p>『出水郷士の読書と芸能』 丹羽 謙治 (法文学部助教授)</p> <p>『世界史の中の出水ー天保改革から維新へー』 原口 泉 (法文学部教授)</p>	<p>平成16年11月21日</p> <p>平成16年11月21日</p> <p>平成16年12月5日</p> <p>平成16年12月5日</p>	<p>中央図書館</p> <p>中央図書館</p> <p>出水市中央公民館</p> <p>出水市中央公民館</p>
第7回 (平成17年度)	海が運んだ中世かごしま ー陶磁器・中国銭・書籍が語る東アジア文明ー	平成17年11月2~6日 平成17年11月18~20日	中央図書館 志布志町文化会館
	<p>■ 記念講演会 演題・講師</p> <p>『中世東アジアにおける銭貨流通』 大田 由紀夫 (法文学部助教授)</p> <p>『南九州と中世・近世文学』 丹羽 謙治 (法文学部助教授)</p> <p>『島津荘と日宋貿易 -志布志・隼人・金峰町域を中心に-』 日隈 正守 (教育学部助教授)</p> <p>『志布志大慈寺と京都・中国』 原口 泉 (法文学部教授)</p>	<p>平成17年11月6日</p> <p>平成17年11月6日</p> <p>平成17年11月20日</p> <p>平成17年11月20日</p>	<p>中央図書館</p> <p>中央図書館</p> <p>志布志町文化会館</p> <p>志布志町文化会館</p>
第8回 (平成18年度)	描かれた自然ー江戸の植物図ー	平成18年10月18日~22日 平成18年11月17日~19日	中央図書館 指宿市考古博物館
	<p>■ 記念講演会 演題・講師</p> <p>『狂歌絵本と植物画など』 中山 右尚 (教育学部教授)</p> <p>『近世の花鳥画について』 下原 美保 (教育学部助教授)</p> <p>『質問本草の植物をめぐって』 堀田 満 (本学名誉教授)</p> <p>『島津斉彬の植物研究と天璋院篤姫』 原口 泉 (法文学部教授)</p>	<p>平成18年10月22日</p> <p>平成18年10月22日</p> <p>平成18年11月19日</p> <p>平成18年11月19日</p>	<p>中央図書館</p> <p>中央図書館</p> <p>指宿市考古博物館</p> <p>指宿市考古博物館</p>
第9回 (平成19年度)	没後120年 島津久光 ー玩古道人の実像ー	平成19年10月17~21日 平成19年11月9~23日	中央図書館 始良町歴史民俗資料館
	<p>■ 記念講演会 演題・講師</p> <p>『玉里文庫の諸相ー洋学から江戸文化までー』 中山 右尚 (教育学部教授)</p> <p>『玉里文庫にみる大名文化と島津久光』 原口 泉 (法文学部教授)</p> <p>『篤姫の結婚-幕末維新の伏流水-』 寺尾 美保 (尚古集成館学芸員)</p> <p>『島津久光 人と学問』 丹羽 謙治 (法文学部准教授)</p>	<p>平成19年10月21日</p> <p>平成19年10月21日</p> <p>平成19年11月23日</p> <p>平成19年11月23日</p>	<p>中央図書館</p> <p>中央図書館</p> <p>始良町中央公民館</p> <p>始良町中央公民館</p>
第10回 (平成20年度)	薩摩の女性文化 ー姫君たちの雅(みやび)・暮らしー	平成20年11月11~16日 平成20年11月28~30日	中央図書館 垂水市市民館
	<p>■ 記念講演会 演題・講師</p> <p>『くらしの中の伊勢物語』 下原 美保 (教育学部准教授)</p> <p>『島津家の女性たち』 丹羽 謙治 (法文学部准教授)</p> <p>『近衛家からみた島津氏』 金井 静香 (法文学部准教授)</p> <p>『「源氏物語」と姫君教育・文化』 中島 あや子 (法文学部教授)</p>	<p>平成20年11月16日</p> <p>平成20年11月16日</p> <p>平成20年11月30日</p> <p>平成20年11月30日</p>	<p>中央図書館</p> <p>中央図書館</p> <p>垂水市市民館</p> <p>垂水市市民館</p>

回	テーマ	開催日	開催場所
第11回 (平成21～22年度)	薩摩藩「玉里邸」とその文化	平成22年2月16日～5月9日	鹿児島県歴史資料センター黎明館
	■ 解説講座 演題・講師 『玉里島津家の人々と玉里島津家資料』 新福 大健 (黎明館学芸専門員)	平成22年3月6日	鹿児島県歴史資料センター黎明館
	『玉里島津家の近代―「島津田鶴子日記」より―』 丹羽 謙治 (法文学部教授)	平成22年4月17日	鹿児島県歴史資料センター黎明館
第12回 (平成22年度)	鹿児島大学附属図書館・坊津歴史資料センター輝津館合同企画展「海を駆ける―東アジア世界の海域交流、その光と陰<薩摩、琉球、明・清>―」	平成22年11月6日～11月28日 平成22年12月3日～12月19日	坊津歴史資料センター輝津館 中央図書館
	■ 解説講座 演題・講師 『モノから見た薩摩・坊津の対外交流史―貿易陶磁を中心に―』 橋口 亘 (輝津館学芸員)	平成22年12月5日	中央図書館
	『東アジア世界の海域交流』 徳永 和喜 (黎明館学芸課長)	平成22年12月5日	中央図書館
第13回 (平成23年度)	明治の浮世絵師と西南戦争	平成23年11月19日～12月4日	中央図書館
	■ 解説講座 演題・講師 『躍動する英傑たち―西南戦争錦絵の魅力―』 山西 健夫 (鹿児島市立美術館学芸係長)	平成23年11月27日	中央図書館
	『城下土坂本父子の西南戦争』 塩満 郁夫 (志学館大学非常勤講師)	平成23年11月27日	中央図書館

● 利用環境の整備・充実

1. 利用者の視点に立った図書館運営を行うため、学部学生及び大学院生からなる学生モニターを組織し、懇談会等を実施した。
2. 附属図書館ホームページリニューアル
(平成24年4月公開)

● 設備等の改善

1. 桜ヶ丘分館、水産学部分館トイレ改修（身障者対応）

● 図書館の公開

1. 平成23年度鹿児島大学附属図書館貴重書公開「明治の浮世絵師と西南戦争」
(平成23年11月19日－12月4日)
 - ・展示作品解説（平成23年11月19日、26日）
 - ・講演会（平成23年11月27日）

● 講習会

1. 目録システム地域講習会図書コース開催（NII共催）
(平成23年9月7日－9日)

● 講師派遣

1. 第4回中国・四国・九州・沖縄地区大学図書館職員フレッシュパーソンセミナーへ講師を派遣した。
(平成23年9月15日)
2. SPARC Japanセミナー2011へ講師を派遣した。
(平成24年2月28日－3月1日)

● 実習生の受入

1. 図書館実習
 - ・鹿児島国際大学短期大学部 3名
(平成23年5月30日－6月10日)
 - ・鹿児島純心女子短期大学 1名
(平成23年6月20日－24日)
 - ・筑波大学 1名
(平成23年7月7日－22日)
2. 職場体験学習
 - ・鴨池中学校 3名
(平成23年5月17日－19日)
 - ・鹿児島大学教育学部附属中学校 3名
(平成23年11月1日－2日)
3. インターンシップ
 - ・鹿児島大学 1名
(平成23年8月22日－26日)

● 広報・出版

1. 図書館概要2011（平成23年8月）
2. 図書館利用案内
[中央図書館、桜ヶ丘分館、水産学部分館]
(平成24年3月)
3. 図書館・学術情報活用ハンドブック2012
(平成24年3月)

● リポジトリ

1. 鹿児島県学術共同リポジトリ（愛称KARN：Kagoshima Academic Repository Network）運用開始（平成24年3月）

● その他

1. オープンキャンパスへの参加
(平成23年8月6日－7日)
2. リユース市
中央図書館（平成23年7月28日－29日）
桜ヶ丘分館（平成24年1月24日－26日）
3. 鹿児島大学附属図書館危機管理マニュアルを作成
(平成23年10月)
4. 九州地区大学図書館合同キャンペーン「Library Lovers'キャンペーン2011」開催
(平成23年10月12日－11月15日)
5. オープンアクセスウィークへの参加
(平成23年10月24日－30日)
6. かごしま読書フェス@鹿大開催
(平成23年11月6日)

- 昭和 国立学校設置法の公布により、第七高等学校、鹿児島師範学校、鹿児島青年師範学校、鹿児島農林専門学校、鹿児島
 24.5 水産専門学校を母体として、鹿児島大学（文理学部、教育学部、農学部、水産学部）設置、附属図書館設置
 24.7 文理学部・一般教養部分館、教育学部分館、農学部分館、水産学部分館設置
- 25.1 「鹿児島大学附属図書館規程」制定
- 26.1 「玉里文庫」を島津家（玉里）から購入
- 27.4 文理学部・一般教養部分館の閲覧室・書庫等類焼（焼失図書37,771冊）
- 28.5 文理学部・一般教養部分館が鴨池町に新築された文理学部文科研究棟1階に移転
- 28.6 附属図書館（本館）が鴨池町の文理学部文科研究棟3階に移転
- 28.11 「鹿児島大学附属図書館長選考規程」制定
- 30.7 鹿児島県立大学の鹿児島大学への統合に際し、「岩元文庫」を鹿児島県から受贈
- 32.2 鹿児島県立大学医学部が山下町の旧七高跡に新築移転したのに伴い、図書館は管理棟1階に移転
- 33.5 工学部分館、医学部分館設置
- 34.5 工学部分館が鴨池町に新築された工学部管理棟1階に移転
- 36.4 教育学部分館が鴨池町に新築された教育学部文科理科実験研究棟1階に移転
- 37.7 「鹿児島大学附属図書館閲覧規程」制定
- 39.1 事務長制設置
- 40.3 中央図書館（地上3階建、3,512㎡）竣工
- 40.4 文理学部、教育学部、工学部、農学部の各分館は中央図書館に統合
 （事務組織）事務長－総務係、整理係、受入係、学術情報係、閲覧係、医学部分館図書係、水産学部分館図書係
- 40.5 中央図書館開館
 「鹿児島大学附属図書館規程」全部改正「鹿児島大学附属図書館運営委員会規程」、「鹿児島大学附属図書館事務分
 掌規程」制定
- 40.9 「鹿児島大学附属図書館長候補者推薦規程」、「鹿児島大学附属図書館長候補者選挙管理規程」、「鹿児島大学附属
 図書館分館長選考規程」、「鹿児島大学附属図書館古文書古書等評価委員会規程」制定
- 41.4 「図書館利用案内」発行開始
- 41.12 「鹿大図書館情報」創刊
- 43.6 「鹿児島大学附属図書館文献複写規程」制定
- 45.2 水産学部分館新館（地上2階建、849㎡）竣工
- 47.3 中央図書館オーディオ室にステレオ装置完成
- 47.12 中央図書館に冷暖房設備完成
- 49.4 事務部制（1部2課）設置
 事務部長
 整理課：総務係、整理係、受入係、医学部分館図書係、水産学部分館図書係
 閲覧課：運用係、学術情報係
- 49.8 「鹿児島大学附属図書館事務分掌細則」制定
 医学部及び附属病院の宇宿町亀ヶ原への新築移転に伴い、医学部分館移転
- 51.4 中央図書館に参考係新設
 整理課：総務係、整理係、受入係、医学部分館図書係、水産学部分館図書係
 閲覧課：運用係、参考係、雑誌係
 「附属図書館概要」発行開始
- 52.4 医学部分館新館（地上2階建、1,380㎡）竣工
- 52.7 自然科学系外国雑誌購入費二種の配分を受け農学系外国雑誌センター発足
- 53.7 「鹿児島大学図書館報」創刊（平成5. 3「南風：鹿児島大学図書館報」に誌名変更）
- 53.11 中央図書館業務電算化開始（日本電気製NEACシステム200）
- 54.4 歯学部設置に伴い医学部分館は医学部及び歯学部のための分館となり、宇宿分館と改称
- 54.5 「鹿児島大学附属図書館規則」全部改正
- 55.1 「鹿児島大学附属図書館利用規則」、「鹿児島大学附属図書館貴重書に関する規則」、「鹿児島大学附属図書館中央
 図書館利用規則」制定

- 55.4 「鹿児島大学附属図書館水産学部分館利用細則」制定
JOIS（日本科学技術情報センターオンライン情報検索システム）による情報検索サービス開始（中央図書館、宇宿分館）
- 55.5 「鹿児島大学附属図書館宇宿分館利用細則」制定
- 56.5 宇宿分館で3階部分600㎡を増築（地上3階建、1,980㎡）
- 57.7 中央図書館において係再編成、宇宿分館に閲覧係新設
整理課：総務係、受入係、目録係、宇宿分館整理係、水産学部分館図書係
閲覧課：運用係、学術情報係、相互利用係、宇宿分館閲覧係
- 58.11 DIALOG(DIALOG社のオンライン情報検索システム)による情報検索サービス開始（中央図書館、宇宿分館）
- 59.2 整理課に図書館専門員配置
- 63.4 情報処理センターの電子計算機システム（IBM3081）の一環として図書館業務システム（KIND）開発
課名変更 整理課→情報管理課、閲覧課→情報サービス課
- 63.5 「鹿児島大学附属図書館学外者利用内規」制定
- 63.10 学術情報センターと接続し、目録登録開始
- 平成 業務システムに合わせて係再編成及び名称変更
- 元年4 情報管理課：総務係、和書係、洋書係、宇宿分館管理係、水産学部分館図書係
情報サービス課：第一資料サービス係、参考調査係、逐次刊行物係、宇宿分館第二資料サービス係
- 2.3 外国雑誌センター雑誌を農学部図書室から中央図書館に移動
- 2.4 中央図書館に高速ファクシミリ導入
- 2.12 宇宿分館に「MEDLINE（CD-ROM版）」導入
- 3.3 医療技術短期大学部図書室を宇宿分館に統合
- 4.2 宇宿分館に「医学中央雑誌（CD-ROM版）」導入
- 4.4 住居表示変更に伴い宇宿分館を桜ヶ丘分館と改称
学術情報センターILLシステムによる相互利用サービス開始
- 4.5 土曜閉庁により土曜日休館
- 4.7 土曜開館（午前10時～午後5時）開始
- 5.2 図書館業務電算化経費の配分を受け情報処理センターとの共用機導入（IBM3090/18S）
- 5.10 新中央図書館第一期工事着工
- 6.3 「附属図書館自己点検・評価報告書」発行
桜ヶ丘分館に電動式集密書架設置
- 6.4 「水産学部分館運営委員会規則」制定
- 6.8 桜ヶ丘分館に文献情報検索システム（Opti-Net）を導入、学内LAN上で「MEDLINE」「医学中央雑誌」の提供開始
- 6.9 新中央図書館第一期工事（地上5階・地下1階建、4,170㎡）竣工
- 7.3 新中央図書館第一期工事部分開館
中央図書館にブックディテクション/システム（BDS）導入
中央図書館に文献情報検索システム（ERL）導入、「MEDLINE」等の提供開始
蔵書計画専門委員会が「図書館資料の整備について」を附属図書館運営委員会に報告
- 7.4 課再編成
情報管理課：総務係、和書係、洋書係、逐次刊行物係、桜ヶ丘分館管理係
情報サービス課：第一資料サービス係、参考調査係、桜ヶ丘分館第二資料サービス係、水産学部分館図書係
- 7.8 遡及入力開始
- 7.10 新中央図書館第二期工事着工
文献電送システム（Ariel）導入
- 8.2 総合情報処理センターの電子計算機システム更新に伴い、図書館業務システムを富士通製ILLIS/WRに更新
附属図書館WWWホームページ開設
- 8.3 カラー複写機設置（中央図書館、桜ヶ丘分館）
- 8.9 桜ヶ丘分館で日曜開館（午後0時～5時）開始
- 8.12 新中央図書館第二期工事（地上5階・地下2階建、8,516㎡）竣工
- 9.1 玉里文庫：琉球関係資料（18点）を電子化

- 9.3 文献情報検索システム（ERL）を増設、「Current Contents」の提供開始
WWWホームページ上から文献情報検索サービス開始
「附属図書館利用規則」及び3館の「利用細則」全部改正
- 9.3 農学部図書室資料を中央図書館に移動、職員1名を中央図書館に配置
- 9.4 新中央図書館全面開館
桜ヶ丘分館にブックディテクション・システム（BDS）導入
- 9.9 中央図書館において日曜開館（午前10時～午後5時）開始
- 10.3 玉里文庫：薩摩藩関係資料(146点)を電子化
- 10.4 係再編成および係の名称変更
情報管理課：総務係、資料受入係、目録情報係、情報システム係、桜ヶ丘分館管理係
情報サービス課：資料サービス係、参考調査係、桜ヶ丘分館情報サービス係、水産学部分館図書係
- 10.6 本学を当番館として第45回国立大学図書館協議会総会開催（会場：鹿児島市民文化ホール）
- 10.8 中央図書館地下に電動式集密書架完備（平成8年度より3年計画）
- 10.11 文献情報検索システム（CD-Intranet）を導入、ホームページ上から「医学中央雑誌」、「雑誌記事索引」の提供開始
- 10.12 「鹿児島大学附属図書館図書館貴重書管理委員会設置要項」制定
- 11.3 「鹿児島大学附属図書館学外者利用内規」改正
「利用者の評価に対する課題と対応（行動計画）－附属図書館自己点検・評価報告」発行
玉里文庫：国書及び絵図関係資料(76点)を電子化
- 11.4 学外者への館外貸出開始（中央図書館）
- 12.2 水産学部分館1階改修
- 12.3 総合情報処理センター電子計算機システム更新に伴い、図書館業務システムをNTTデータ製NALISに更新
「中央図書館資料選定委員会要項」制定
玉里文庫：洋学関係資料(137点)を電子化
貴重書目録データベースの検索システム稼働
- 13.3 電子図書館システム（電子的情報の収集・検索システム）導入
報告書「図書館資料の整備について」作成
玉里文庫：有職故実関係資料(217点)を電子化
- 13.4 桜ヶ丘分館開館時間の延長実施（平日午前9時～午後9時、土・日午前10時～午後5時）
- 13.12 携帯電話対応版ホームページ開設
- 14.1 電子ジャーナル・サービス開始
- 14.4 「附属図書館利用規則」及び中央図書館及び2分館の「利用細則」一部改正
桜ヶ丘分館 土・日曜日開館時間の延長実施（午前10時～午後6時）
- 14.10 引用文献索引データベース（Web of Science）導入
- 16.3 図書台帳データベース作成
- 16.4 国立大学法人化に伴う諸規則改正
係等の名称変更：情報管理課図書館専門員を情報管理課長代理、目録情報係を学術コンテンツ係、情報システム係を情報基盤係に変更
- 16.4 学外者への館外貸出開始（水産学部分館）
「鹿児島大学附属図書館図書管理指針」制定
- 16.11 「鹿児島大学附属図書館貴重書取扱規則」制定
- 16.12 「鹿児島大学附属図書館自己評価委員会規則」制定
- 17.2 中央図書館に図書自動貸出装置を導入
水産学部分館にブックディテクション・システム（BDS）導入
- 17.4 電子ジャーナル・文献情報データベース維持費を基盤経費化(部局分担方式)
情報リテラシー支援室を設置
- 17.8 鹿児島県歴史資料センター黎明館と連携協力に関する協定を締結
- 18.4 情報管理課に経理係を設置
- 18.9 「鹿児島大学附属図書館の理念」作成

- 18.9 「鹿児島大学附属図書館印刷サービス規則」制定
- 19.4 鹿児島大学リポジトリの構築および部分公開開始
「附属図書館自己点検・評価報告書」公開
附属図書館事務部を学術情報部に改編し、情報リテラシー係を設置
情報管理課：総務係、資料受入係、学術コンテンツ係、桜ヶ丘分館管理係
情報サービス課：資料サービス係、参考調査係、情報リテラシー係、桜ヶ丘分館情報サービス係、水産学部分館図書係
全館開館時間の拡大実施（平日午前8時30分から）
- 19.10 アメニティコーナー設置
- 19.12 「鹿児島大学附属図書館文献複写規則」制定
- 20.4 中央図書館 開館時間の拡大実施(平日午後9時30分まで、土日午後6時まで)
- 20.6 中央図書館3階に「総合案内デスク」を設置し、サービスを開始
- 20.7 情報サービス課の参考調査係と情報リテラシー係を情報調査支援係に統合
- 21.3 中央図書館冷暖房装置の燃料を重油からガスへ切替
全館の閲覧机の一部に間仕切り設置
中央図書館の西日対策として遮光フィルムを貼付
中央図書館にギャラリー‘アトリウム’を設置し大型の移動式パネルと照明を導入
中央図書館に電子掲示板システムを導入
桜ヶ丘分館にアメニティコーナー設置
水産学部分館にグループ学習室を設置
- 21.4 情報管理課と情報企画推進室を情報企画管理課に統合
情報企画管理課：総務係、情報企画係、情報システム管理係、資料受入係、学術コンテンツ係、桜ヶ丘分館管理係
情報サービス課：資料サービス係、情報調査支援係、桜ヶ丘分館情報サービス係、水産学部分館図書係
- 21.8 「附属図書館自己点検・評価報告書」公開
- 21.10 鹿児島大学歴史展示室設置
- 22.2 「鹿児島大学附属図書館貴重書利用規則」制定
- 22.3 中央図書館にグループ学習室の増設、アメニティルームの設置
桜ヶ丘分館のアメニティルームを拡張
- 22.4 電子書籍サービス開始
- 22.7 事務組織の再編により情報企画管理課を情報管理課へ変更
情報管理課：総務係、資料受入係、学術コンテンツ係
情報サービス課：資料サービス係、情報調査支援係、桜ヶ丘分館情報サービス係、水産学部分館情報サービス係
- 22.11 「鹿児島大学附属図書館印刷サービス規則」廃止
- 23.3 桜ヶ丘分館に図書自動貸出装置を導入
- 23.4 英国下院議会文書データベース、サービス開始
- 23.6 中央図書館において入退館システム稼働
- 23.7 「鹿児島大学リポジトリに関する要項」制定
- 24.3 鹿児島県学術共同リポジトリ（愛称KARN）運用開始
「国立大学法人鹿児島大学図書館企画室要項」制定
- 24.4 「鹿児島大学附属図書館一般利用者の利用に関する要項」制定
「鹿児島大学附属図書館桜ヶ丘分館一般利用者の利用に関する要項」制定
「鹿児島大学附属図書館水産学部分館一般利用者の利用に関する要項」制定

附属図書館長

西 力造	(農学部)	昭和25.5.15~28.11.26
渋谷正健	(//)	28.11.27~32.11.26
尾崎 忍	(一般教養部)	32.11.27~36.11.26
藤田親男	(水産学部)	36.11.27~38.11.26
増村 宏	(法文学部)	38.11.27~40.11.26
西山武一	(//)	40.11.27~42.11.26
丹下信雄	(//)	42.11.27~45.5.17
大庭千尋	(//)	45.5.18~49.3.31
山根銀五郎	(理学部)	49.4.1~50.1.31
桃園憲真	(法文学部)	50.2.1~52.1.31
浦野 芳	(理学部)	52.2.1~56.1.31
五味克夫	(法文学部)	56.2.1~60.1.31
上村剛一	(//)	60.2.1~63.3.31
税所俊郎	(水産学部)	63.4.1~平成4.3.31
石橋丸應	(医学部)	平成4.4.1~5.3.31
荒川 讓	(教養部)	5.4.1~9.3.31
山下 智	(理学部)	9.4.1~12.3.31
中山右尚	(教育学部)	12.4.1~14.3.31
石田尚治	(理学部)	14.4.1~16.3.31
早川勝光	(//)	16.4.1~20.3.31
井上佳朗	(法文学部)	20.4.1~24.3.31
野呂忠秀	(水産学部)	24.4.1~現在

旧医学部分館長

平野清寿	昭和33.5.1~39.4.30
久保隆一	39.5.1~43.4.30
川路清高	43.5.1~46.3.31
城 哲男	46.4.1~48.3.31
寺脇 保	48.4.1~50.3.31
大保不二夫	50.4.1~52.3.31
松本保久	52.4.1~54.3.31

旧宇宿分館長

橋村三郎	(医学部)	昭和54.4.1~56.3.31
柚木一雄	(//)	56.4.1~58.3.31
佐藤淳夫	(//)	58.4.1~60.3.31
脇阪一郎	(//)	60.4.1~62.3.31
田代正昭	(//)	62.4.1~平成元.3.31
小片丘彦	(歯学部)	平成元.4.1~3.3.31
石橋丸應	(医学部)	3.4.1~4.3.31

事務長

尾崎唯一	昭和39.1.16~41.3.31
上松清徳	41.4.1~45.6.30
梶松良雄	45.7.1~49.3.31

事務部長

黒住 武	49.4.1~52.3.31
沙藤隆茂	52.4.1~54.3.31
蓑輪 武	54.4.1~56.3.31
岩井昭三	56.4.1~58.3.31
阿部 武	58.4.1~62.3.31
渋谷喜雄	62.4.1~平成元.3.31
重松多喜造	平成元.4.1~3.3.31
坂口淳二	3.4.1~6.3.31
佐田忠鴻	6.4.1~8.3.31
田尻英雄	8.4.1~11.3.31
香川一郎	11.4.1~13.3.31
安永 勉	13.4.1~15.3.31
森松陸雄	15.4.1~18.3.31
寺垣敏司	18.4.1~19.3.31

学術情報部長

寺垣敏司	19.4.1~21.3.31
長友良維	21.4.1~24.3.31
飯田昇平	24.4.1~現在

整理課長

梶松良雄	昭和49.4.1~51.3.31
砂本 眞	51.4.1~53.3.31
有馬満雄	53.4.1~60.3.31
池口順一	60.4.1~63.3.31
岡 博満	63.4.1~63.4.7

情報管理課長

岡 博満	63.4.8~平成3.3.31
池口順一	平成3.4.1~5.3.31
小川正明	5.4.1~8.3.31
森 生也	8.4.1~10.3.31
蓑原和秀	10.4.1~13.3.31
吉田秀紀	13.4.1~16.3.31
渡邊俊彦	16.4.1~17.12.31
古賀幸成	18.1.1~19.3.31
吉田英明	19.4.1~21.3.31

情報企画管理課長

森田博人	21.4.1~22.3.31
上國料宏	22.4.1~22.6.30

情報管理課長

松野下繁文	22.7.1~23.3.31
松田孝三	23.4.1~現在

桜ヶ丘分館長

松下敏夫	(医学部)	平成4.4.1~6.3.31
水枝谷渉	(歯学部)	6.4.1~7.3.31
津金澤督雄	(医学部)	7.4.1~11.3.31
小椋 正	(歯学部)	11.4.1~13.3.31
中河志朗	(医学部)	13.4.1~15.3.31
秋山伸一	(//)	15.4.1~17.3.31
原田秀逸	(大学院医歯学総合研究科)	17.4.1~19.3.31
波多野浩道	(医学部)	19.4.1~21.3.31
出雲周二	(大学院医歯学総合研究科)	21.4.1~23.3.31
鳥居光男	(歯学部)	23.4.1~現在

水産学部分館長

伊豆川浅吉	(水産学部)	昭和24.9.15~28.6.15
村山三郎	(//)	28.6.16~30.6.15
柏田研一	(//)	30.6.16~32.6.15
今田清二	(//)	32.6.16~34.6.15
田中 剛	(//)	34.6.16~36.2.23
藤田親男	(//)	36.2.24~36.11.26
太田冬雄	(//)	36.11.27~38.11.26
柏田研一	(//)	38.11.27~40.11.26
高橋淳雄	(//)	40.11.27~42.11.26
今井貞彦	(//)	42.11.27~48.11.26
片山輝久	(//)	48.11.27~58.4.1
八木庸夫	(//)	58.4.2~61.3.31
奈良迫嘉一	(//)	61.4.1~62.3.31
税所俊郎	(//)	62.4.1~63.3.31
日高富男	(//)	63.4.1~平成2.3.31
日高富男	(//)	平成2.4.1~4.3.31
鮫島宗雄	(//)	4.4.1~7.3.31
尾上義夫	(//)	7.4.1~15.3.31
松田恵明	(//)	15.4.1~17.3.31
坂田泰造	(//)	17.4.1~19.3.31
川村軍蔵	(//)	19.4.1~22.3.31
板倉隆夫	(//)	22.4.1~現在

閲覧課長

山下政二	昭和49.4.1~51.3.31
永久昭二	51.4.1~55.3.31
斉藤現太郎	55.4.1~57.3.31
本多震一	57.4.1~60.3.31
坂口淳二	60.4.1~62.3.31
北村武夫	62.4.1~63.4.7

情報サービス課長

北村武夫	63.4.8~平成2.3.31
長津 俊	平成2.4.1~4.3.31
早瀬 均	4.4.1~7.3.31
北村明久	7.4.1~9.3.31
村上章徳	9.4.1~12.3.31
河野雅史	12.4.1~14.3.31
渡邊俊彦	14.4.1~16.3.31
吉田英明	16.4.1~19.3.31
小川 稔	19.4.1~22.3.31
瓜生照久	22.4.1~24.3.31
能勢明雄	24.4.1~現在

●中央図書館

市営バス	J R 鹿児島中央駅から	9番線	鴨池港行	法文学部前下車
//	鹿児島市役所前・J R 鹿児島中央駅から	11番線	//	//
//	J R 鹿児島中央駅から	20番線	//	//
市電	J R 鹿児島中央駅から		郡元行	工学部前下車

●桜ヶ丘分館

市営バス	鹿児島市役所前・J R 鹿児島中央駅から	18番線	桜ヶ丘行	大学病院前下車
鹿児島交通バス	J R 鹿児島中央駅から		大学病院行	//
//	鴨池港発		桜ヶ丘東口行	//

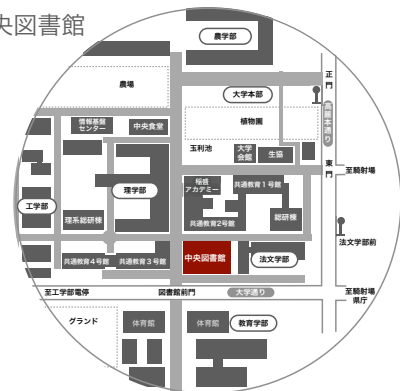
●水産学部分館

市営バス	鹿児島市役所前・J R 鹿児島中央駅から	11番線	鴨池港行	体育館前下車
//	//	18番線	桜ヶ丘行	//
//	鹿児島市役所前から	12・31・32番線	三和町行	水産学部前下車
//	//	15番線	紫原行	体育館前下車
//	J R 鹿児島中央駅から	27番線	与次郎一丁目行	水産学部前下車

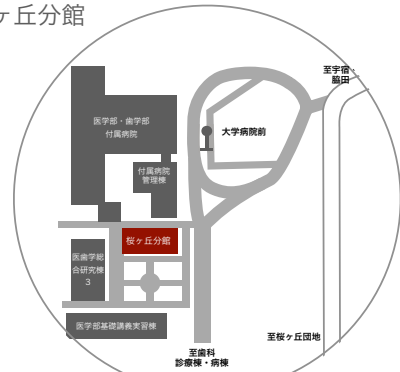
■主要路線図



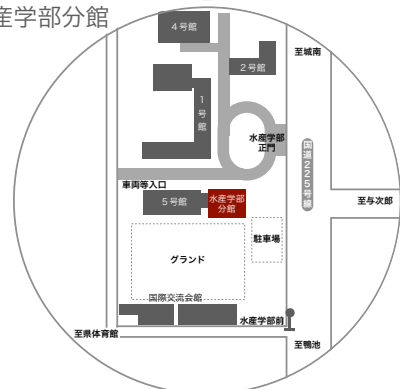
中央図書館



桜ヶ丘分館



水産学部分館



附属図書館成長へのビジョン

クリエイティブ・ライブラリー Creative Library

2012



鹿児島大学附属図書館

内容

■はじめに

■大学の社会的使命と附属図書館の課題

1. 知識基盤社会における大学と附属図書館の役割
2. 鹿児島大学の持続的発展と附属図書館機能の強化

■附属図書館の基本構造と機能

■クリエイティブ・ライブラリー構想

1. 概念：クリエイティブ・ライブラリーのコアバリュー
2. クリエイティブ・ライブラリーを構成する二大機能
3. ラーニング・コモンズ：学習・教育支援
4. リサーチャーズ・コモンズ：研究支援
5. 「知のネットワーク」の構築

■クリエイティブ・ライブラリーの学術情報戦略の骨子

1. 附属図書館が取り扱う学術情報の種類
2. 学術情報の効果的・効率的利用体制の構築
3. 学内共同利用施設等のデータベースの一元的管理
4. 学術情報のバックアップ体制

■クリエイティブ・ライブラリーの強化策

1. 電子化の推進と「いつでもどこでも図書館」の実現
2. 国際化への対応力向上
3. 得意分野の形成
4. 職員力・組織力の向上
5. 知の生産現場としての施設・設備の整備

■安定的財政基盤の確立

クリエイティブ・ライブラリーを目指して

■はじめに

すぐれた大学にすぐれた図書館あり

大学の附属図書館は、その大学のクォリティやステータスの象徴である。図書館は人類発展の歴史と共に大きな役割を果たしてきたが、特に近代的な大学誕生の当初から、附属図書館は大学の最も重要な資産かつ機能として位置づけられ、大学の栄光の歴史が詰まっている。今日でも、附属図書館は、高等教育機関たる大学の教育と研究の遂行にとって必須要素である学術情報を、一元的に管理運用する中枢機関であり、附属図書館の在りようが大学のクォリティやステータスに大きな影響を与える。

鹿児島大学は、その中心的価値観である「進取の気風」を醸成するとともに、総合大学としての「学際性」を活かした「協働性」によって「革新性」に溢れた教育・研究を展開していくことが求められており、附属図書館もまた、学術情報の収集・整理・提供・管理といったコア機能を高めつつ、本学の価値を活かした特色あるサービス体制を確立していくことが求められている。

附属図書館に対する要請は時代と共に変化する。それ故、附属図書館は、常に見直しを行いつつ、教職員、学生の知的創造活動を支える機関として、また、社会の発展を支える知的インフラとして、その役割と機能を明確化するとともに、その実現に向けた中長期的なビジョンを作成し、それに基づく事業を計画的に実施・実現して行かなければならない。

なお中期目標・計画期間における具体的な目標と施策並びに実施計画は、別途定めるものとする。

■大学の社会的使命と附属図書館の課題

1. 知識基盤社会における大学と附属図書館の役割

知識基盤社会といわれる今日、学術情報を使いこなす能力を持った人材の育成及び学術情報の利活用は、人類社会の発展ならびに地球環境問題の解決にとって必要不可欠なこととして認識されている。

大学は「学術情報と構成員の英知を元に、教育と研究によって、すぐれた人材を育成し新たな価値と技術を創造し提案することで社会に寄与する機関」であり、どの大学においても、附属図書館は学術情報を収集・整理し管理・提供するシステムの中核機能を担っている。科学技術・学術審議会答申（H18,H22）にもあるように、附属図書館の充実と学術情報の整備・活用の有り様は大学の質を左右しかねず、多くの大学では、「知の時代」に対応した附属図書館の充実に努めている。

2. 鹿児島大学の持続的発展と附属図書館機能の強化

今日の日本では大学間競争が激化しているという現実がある。鹿児島大学がこれからも我が国における重要な高等教育研究機関として、さらには国際的に通用する大学として持続的発展を成し遂げていくためには、本学の戦略的目標に沿って独自性のある教育・研究を展開し、個性輝く鹿児島大学を実現していくことが重要で、そのためにも附属図書館を中核機関とした学術情報の高度利用体制を積極的に推進していく必要がある。

本学の教育・研究・社会貢献のパフォーマンスを高めるために、附属図書館は、従来の「待機型」から「企画提案型」へ、「紙媒体中心型」から電子図書館的機能を併せ持った「ハイブリッド型」へ、「国内利用者中心型」から外国人研究者や留学生が利用しやすい「インターナショナル・ユーザー対応型」へ、自図書館での収蔵中心の「自己完結型」から全国の図書館が相互補完的に協力する「ネットワーク型」へと脱皮を図っていかなければならない。

以上のような動向に沿って、附属図書館が重点的に取り組むべき課題を整理すると、以下のようになろう。

<各大学附属図書館に共通する課題¹>

①**知識社会への対応**：高等教育機関における教育・学習・研究における学術情報の利活用体制の向上に加え、知識社会の発展と地域社会の活動を支えるために、学術情報の流通促進を図る。

②**国際化**：外国人研究者や留学生に対して、多言語（特に英語）による案内やサービスを提供すると共に、海外連携大学図書館との協調を促進する。

③**電子化**：コンテンツのデジタル化を推進すると共にインターネットやスマートフォンの活用に対応する。

¹ 具体的対応策は、本学固有の方法による。

④情報発信力の向上：学内における教育・研究活動ならびに成果に関する情報発信を積極的に行うことで、教育・研究成果の社会的還元と社会的説明責任を果たす。

＜本学附属図書館固有の課題＞

⑤本学の戦略的教育・研究の支援：本学が掲げる戦略的テーマ（「環境」「食と健康」「島嶼」）及び鹿児島に関連する学術資料の重点的な収集・管理と利活用体制を強化・推進する。

現状	将来	実現に向けた課題
待機型	企画提案型	企画力、提案力の向上：ユーザーからの要求を待つのではなく、戦略的な教育・学習・研究の支援策を図書館自らが積極的に企画提案し、スピード感のある効果的な利用を促進する。
紙媒体中心型	ハイブリッド型	電子図書館的機能の強化：コンテンツの電子化、インターネットと先進的電子デバイスの活用による「いつでもどこでも図書館」の実現。
国内利用者中心型	国際・ユーザー対応型	本学が国際化するためには、英語コンテンツの充実、外国人研究員や留学生に対する英語でのサービスは必須の課題。
自己完結型	ネットワーク型	得意分野を強化し、不足分野を全国の図書館が相互に補完的しあう仕組みが必要。本学は、農学系センター館の役割を強化し「ハブ図書館」として中心的な役割を果たすべきであろう。

表 附属図書館の課題

■附属図書館の基本構造と機能

将来ビジョンを作成するに当たっては、附属図書館の仕組みの全体像を理解した上で、実現への道筋を含めて検討することが重要であろう。

附属図書館の機能は、附属図書館が有する資源（学術資料、施設・設備、職員、財政基盤）を、本学における教育・学習・研究の目的と社会貢献の趣旨に沿って、意味ある形に組織化し利用者のサービスに供することにある。ここで言う組織化は、勤務態勢はもとより図書館が有する人材・コンテンツ・環境・資金といった資産を有機的に組み合わせること、及び、附属図書館の外部環境である教育・研究現場を学術情報によってリンクさせることで、最大のサービス効果を生み出すことを含む。

そのためには、館長・部長のリーダーシップの下に、利用者や大学当局の要求・期待を的確に把握し、附属図書館が進むべき将来ビジョンを定め、それに則った具体的な施策の目標と計画を策定して、図書館職員による不断の創意と工夫を、PDCAサイクルの下に実践していくことが肝要である。

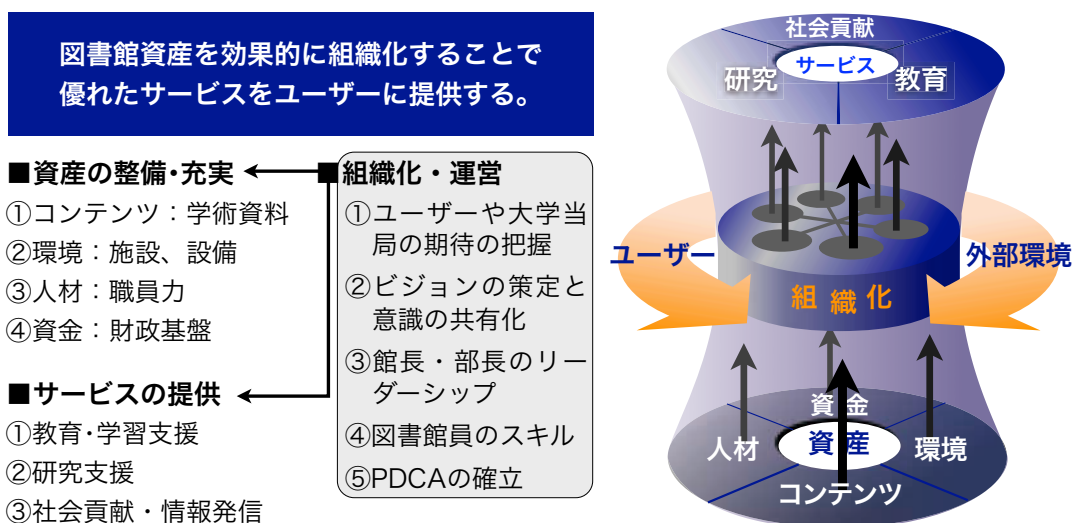


図 附属図書館の基本構造と機能

■クリエイティブ・ライブラリー構想

1. 概念：クリエイティブ・ライブラリーのコアバリュー

大学は本質的にクリエイティブな組織であるべきである。クリエイティブ・ライブラリーは、鹿児島大学の教育と研究における知的創造活動を支える附属図書館の概念であり、同時にその概念を現実化する活動そのものを意味する。

クリエイティブ・ライブラリーのコアバリューは、「出会い」と「知的コミュニケーション」にあり、それによって利用者の「創造性」を促進することにある。また、クリエイティブ・ライブラリーは、学術情報の利用を通じて、以下のような多様な経験をすることで利用者の成長を促進し、同時に大学のパフォーマンスの向上に寄与する場となってほしいと願っている。

- ①「学習・課題解決の場」
- ②「文化的・精神的経験の場」
- ③「交流・コミュニケーションの場」
- ④「知的創造活動が生まれる場」

創造性を刺激する「学際的出会い」と知的コミュニケーション

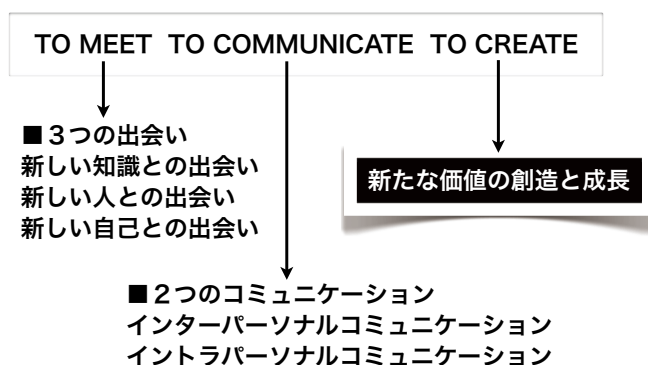


図 クリエイティブ・ライブラリーの理念

クリエイティブ・ライブラリーでは、利用者に三つの出会いをもたらすことを期待している。すなわち、「新しい知識との出会い」、「友人や仲間との出会い」、「新しい自己との出会い」であり、これらの出会いは、利用者に様々な発見や啓発をもたらすことになるだろう。また出会いは必然的に対話を随伴する。特に、知性は他者との対話（インターパーソナル・コミュニケーション）や内なる自己との対話（イントラパーソナル・コミュニケーション）を通して鍛えられ磨かれるはずである。

創造的思考過程における①拡散的思考と②収束的思考のうち、拡散的思考は異質な存在によって活性化される。総合大学である本学では異質な学問分野が多数存在し、それ故、附属図書館には多種多様な学術資料が収集されている。

附属図書館では、本学が総合大学であるという特性を背景に、異分野の研究者・学生が多様な「学際的出会い」と知的コミュニケーションによって創造性が刺激される場として、グループ学習室やアメニティ・ルームを整備しているが、鹿児島大学が、真に創造性に溢れた大学として発展していくためにも、今後、「学際性」を生かした更なる整備をしていく必要がある。

2. クリエイティブ・ライブラリーを構成する二大機能

本学が大学の基本機能である教育と研究を強化し、国内外及び地域社会で確固たる地位を築くためには、附属図書館もまた新たな視点から、自らが果たすべき役割と機能を再定義する必要がある。

附属図書館において教育、特に学生自身の学習を支援する包括的な概念としては、「ラーニング・コモンズ」という言葉が社会的に定着している。一方で研究を支援する包括的概念を表現する共通の言葉は存在しないが、本学附属図書館ではそれを「リサーチャーズ・コモンズ」と名付ける。

今後、附属図書館は、学術情報の収集・整理・提供・管理という伝統的コア機能に加え、学生の学士力を磨く場としての「ラーニング・コモンズ」の機能向上を継続的に行うと共に、新たに本学における創造的活動の推進を強力に支援する「リサーチャーズ・コモンズ」の整備を早急に行い、そこにおいて提供される学術情報活用のプラットフォームによって「知のネットワーク」を形成していく必要がある。

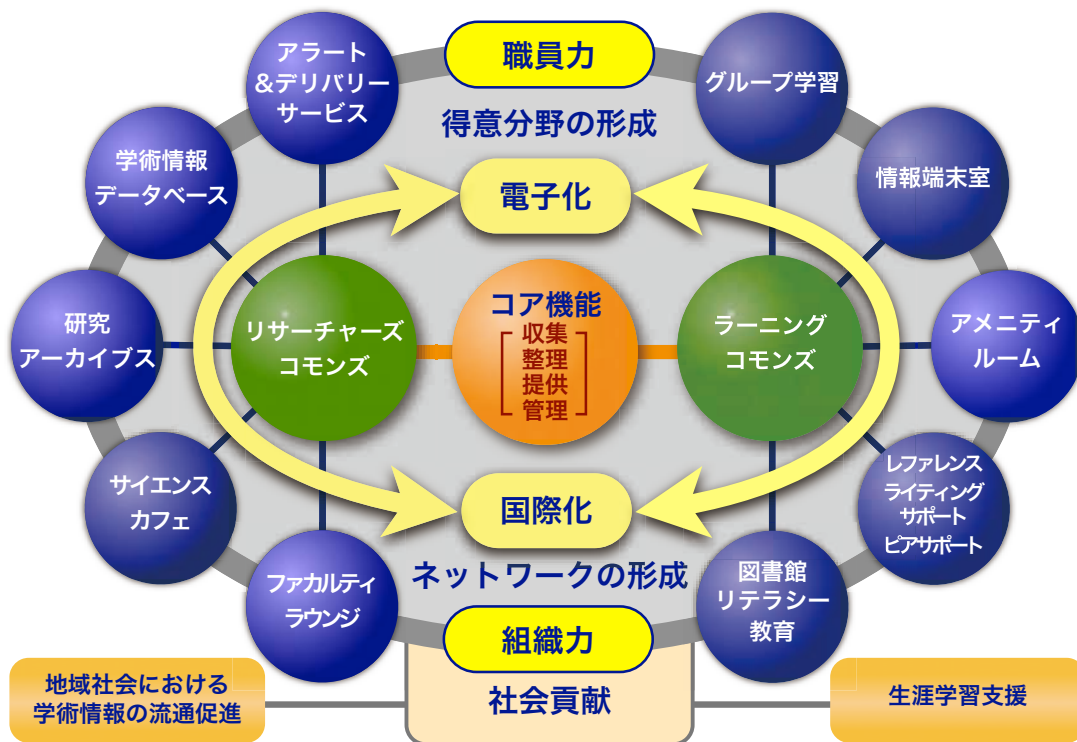


図 クリエイティブ・ライブラリーの概念図

3. ラーニングコモンズ：学習・教育支援

今日の大学教育において、学生の学士力を高める教育の質を担保することは、大学の総力を挙げて取り組むべき最重要課題の一つと言える。学内における知の拠点である附属図書館の立場からは、「学士力とは生涯にわたって、先人が残した知識と自らの経験によって獲得した知識を有効に活用して、全人類的課題、社会的課題、各人の人生における課題について理解し解決できる能力」と、再定義することが可能であろう。その様な考えから、学生の学習を多角的に支援する場が、「ラーニング・コモンズ」である。

科学技術・学術審議会答申（H22）でも、「大学図書館では、ラーニング・コモンズ、図書館職員等によるレファレンスサービスや学習支援は当然のこととなっている。・・・このような「場」を利用して、学生がレポートや論文の書き方を実践的に学ぶライティングの講義や演習、各種検索ツールや図書館の使い方のガイダンス、教員による研究会の実施にも対応することで、学生や教職員の知的交流活動の活性化を図ることが可能となる」、と述べている。

附属図書館においては、この間、学生の課題解決において、創造性思考に見られる「集中」と「拡散」という二つの思考スタイルに対応した



図 ホームページにおけるサブジェクト・ライブラリー（イメージ）

学習環境の整備を行ってきた。すなわち個人閲覧スペースにおけるパーティションの設置、研究個室の整備などにより、集中して学習できる環境を実現すると共に、仲間との知的コミュニケーションによる理解の深化と課題解決の促進を可能にする「グループ学習室」の拡充を行ってきた。また、学習による緊張を和らげ、より柔軟な思考を促すために「アメニティ・ルーム」を設置した。

さらには、レファレンス機能を強化し、部分的にはレポート作成支援のためのライティング・サポートなど、ソフト対策についても実施してきている。今後はTA,SAによるピアサポート、学生の知的好奇心を刺激し知的理解の支援を行う各種イベントやホームページ上での「テーマ別仮想図書館」の実現などに向けた取り組みが進行中である。

4. リサーチャーズ・コモンズ：研究支援

(1) 「知の生産」を促す場としての図書館

科学技術・学術審議会答申（H22）では、大学図書館が研究支援に果たす役割について、「我が国の重点重要施策である科学技術の振興にとって、大学の研究活動への期待は大きい。共同研究・学際的研究の重要性が指摘され、大量の研究データを分析し成果を見出す新しい研究の在り方を支援することが求められている」と指摘すると共に、「研究者間のコミュニケーションを促進し、研究プロセスで生み出される論文になる前の学術情報を蓄積し、共有するためのいわゆるe-Science やCSI(Cyber Science Infrastructure)²と呼ばれるシステムの構築、運用への支援も視野に入れておく必要がある」としている³。

大学における研究は、先人たちが残した学術資料の分析と科学的手法に基づく実験や調査、治療などの実践的な活動によって成り立っている。附属図書館は、本学の戦略的教育研究プロジェクトの推進を効果的に支援するために、学外からの情報の収集・保管・提供とともに、学内において生産された学術的成果を迅速に社会に公開すること、またその成果と付随する資料を後続する研究を促進するために有効活用する体制を整えること、総合大学の利点を活かして研究者同士が交流・コミュニケーションできる場と機会を作り出すことで、本学における創造的研究活動を支えようと考えている。

² 研究活動の国際化・大規模化に伴って、研究者間の連携や学際的なアプローチなどの促進と、データや研究機器などの研究資源の共有化のために、研究コミュニティの形成が必要となっているが、そこでは、多様かつ大量の情報の蓄積と検索、精緻なシミュレーションも可能な情報処理基盤も必要と認識されている。

³ 研究活動支援の課題としては、①研究支援の基本として、学術雑誌、図書、その他研究を進めるうえで必要な情報へのアクセスを確保すること、②図書館は、研究プロセスそのものに密着し、そこで生み出される多様な情報を組織化し、次の研究活動へと活かせるようなサイクルを形成するための基盤を構築することで、知の生産に貢献すること、③大学等における教育研究成果の発信を実現し、社会に対する教育研究活動に関する説明責任の保証や、知的生産物の長期保存などを図る大きな役割を果たすこと、などとしている。

(2)異分野間の交流・コミュニケーション環境の整備

本学が総合大学であることのメリットを活かし対人的レベルでの「知のネットワーク」を構築するためには、自由で寛容な気風と開かれた環境の中で、研究者が専門分野の壁を越え他専門領域の研究者との「学際的出会い」と知的コミュニケーションによって、新たな視点や発想を獲得し創造性を刺激される場を、附属図書館において実現したいと考えている。特に文系と理系の交流・コミュニケーションは重要で、政府が定めた第4期科学技術基本計画（H23）においても、「自然科学のみならず、人文科学や社会科学の視点を取り入れた新たな科学技術イノベーションをめざす」こととしている。

現在、総合大学である本学の附属図書館においては、文系及び理系の多様な分野の学術資料が収集され、近年ではラーニング・コモンズの機能強化のために、グループ学習室やアメニティ・ルームなどでの知的コミュニケーションを媒介にした課題解決の場も整備されている。これらのスペースは研究者にとっても交流・コミュニケーションの場として活用できるものであるが、今後はリサーチチャーズ・コモンズとしての機能向上を図り、研究者にとっても利用しやすい創造的環境へと整備していく必要がある。

5. 「知のネットワーク」の構築

学術情報を効果的に活用し大学全体のパフォーマンスを高めて行くには、学内の関係機関及び教育と研究の現場を、附属図書館をハブとして有機的につなぐ「知のネットワーク」が必要である。

この「知のネットワーク」は、学術情報の利用を基盤にした教育支援のネットワークと研究支援のネットワークの二つから構成されるが、それらは電子的な情報ネットワークのレベルと対人ネットワークのレベルという重層的構造を持つことで、クリエイティブな活動が加速されるものと期待される。

また、これら学内の「知のネットワーク」は学外の関係諸組織ともネットワークされることで、より機能的な効果を発揮する。

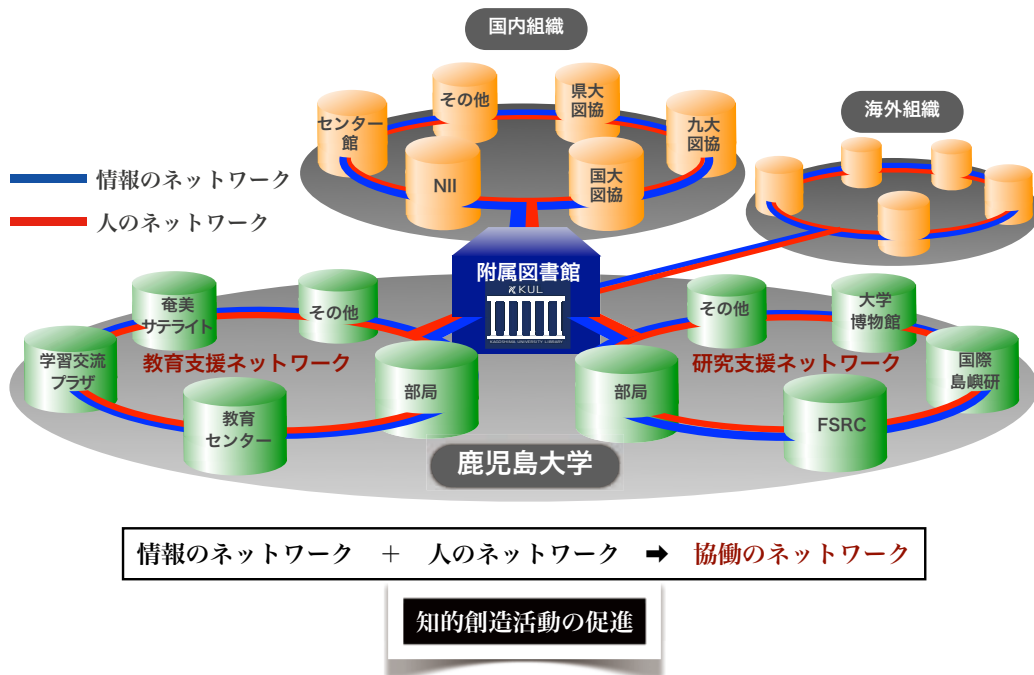


図 教育・研究支援における「知のネットワーク」イメージ

(1)ユーザーとの対人ネットワーク

教育と研究の最前線に立つ教員や来館者の中心である学生ユーザーとの協調・協力関係の質が、附属図書館の質を左右すると言ってもいい。教員及び学生ユーザーとのコミュニケーションを活性化させ、彼らの要望に適確に応えていくことで、図書館の機能とサービスを高度化し、使える図書館として成長していくことができる。ラーニング・コモンズの機能向上には学生との対人ネットワークを、リサーチャーズ・コモンズの機能向上には教員との対人ネットワークの構築を強化していく。ユーザーとの対人ネットワークの構築では、「情報の交換」にとどまらず、ピアサポートや情報リテラシー教育、プロジェクト研究などで、「協働の交換」も実現していきたいと考えている。

(2)教育・研究組織との情報ネットワーク

学内外から収集された学術情報が教育と研究において有効利用され、またその結果、新たに学術情報が生産され再利用に共されるためには、附属図書館と教育・研究組織及び現場とのネットワークを構築していくことが重要である。学術情報の電子化と電子サービスシステム及びネットワーク環境の高度化によって、バーチャル図書館の開設が可能になり、演習室や実験室など様々な教育・学習環境や研究室・実験室等において、あたかも利用者が図書館に入り込んで文献検索から内容の閲覧までを行えるような環境を実現していくことが期待される。

(3)外部機関との情報ネットワーク

外部機関とのネットワークの構築と協働は、附属図書館の情報発信と学術情報の流通を促進していく上で重要である。

現在、学内において生産された研究成果は鹿児島大学リポジトリによって情報発信され、学術情報のオープンアクセス化に寄与しているが、さらに、鹿児島県内の大学が共同して学術成果を社会に発信する「鹿児島県学術共同リポジトリ（KARN）」の運用が、H24年4月より始まる予定である。また、附属図書館が毎年開催してきた「貴重書展」は、付加価値を高めるために、平成21年度から県歴史資料館「黎明館」や南九州市歴史資料館「輝津館」など外部学術機関と共同企画展を行い、質的にも高い情報発信を行っている。

(4)他大学図書館との情報ネットワーク

他大学図書館とのネットワークは主に、二つの意味で益々重要となっている。

一つは、各大学は得意分野を中心に学術情報を収集して、相互に補完しあう関係を強化することである。特に、本学の戦略的テーマである「環境」「食と健康」「島嶼」に関する学術情報の収集には力を入れると共に、農学系センター館としての役割を強化し、農業分野の「ハブ図書館」として中心的な役割を果たすべきであろう。

二つ目は、他大学附属図書館との間で、日々発展する技術的な革新について情報交換することと、他大学附属図書館が行っている創意と工夫に満ちたサービスのノウハウを学ぶことで、本学における図書館サービスの質を維持し高めることにつながる。

■クリエイティブ・ライブラリーの学術情報戦略の骨子

知の拠点である大学のパフォーマンスを高め社会的使命を果たすためには、学内外において生産された学術情報を体系的に収集・保管・提供し、教育・研究活動に対する効率的かつ効果的なサービス体制を構築することが、緊急かつ重要な課題の一つである。

附属図書館は、本学における学術情報を一元的に扱う中核的機関であり、取り扱う学術情報の種類、収集の範囲、収集の方法、提供方法、管理体制などの包括的な指針を示し、効果的な利用システムの構築⁴と円滑な運用を実現していかなければならない⁵。

1. 附属図書館が扱う学術情報の種類

学内における情報は、学術情報⁶、大学一般情報⁷、高次加工情報⁸、病院等の診療情報に大別されるが、附属図書館が取り扱う情報は、学術情報を中心に教育・学習と研究にとって効果的と考えられる情報のすべてを言う。近年、学術情報の媒体も、文字を中心とした印刷物から電子化された文字・映像・音響などが増大し、それ故、今後附属図書館が取り扱う学術情報の範囲は、これまで扱っていた学術情報の範疇を遙かに超える内容を包含することになる。

情報の種類	内容
学術情報	論文、図書、特許、教科書・教材、調査研究報告書、資料集、実験データ集、教育・実験・調査・研究の現場での一次データ、統計集、データベース・リポジトリ、工芸・有体物、その他これに類するもの
大学一般情報	コンピュータシステム、ネットワークシステムのOS等のソフトウェア、研究システム・研究データ処理システム・業務システムのアプリケーション、総務・人事・文書、財務・資産、学務等の業務情報、大学経営・運営情報など

⁴ システムの構築に当たっては、情報基盤センターの支援を得ながら、教育センター・学内共同利用施設等との連携で進めていく必要がある。

⁵ 当面、5～10年を見通した学術情報戦略を立てる。

⁶ 教育・調査・研究活動や文化的・社会的な諸活動の成果物で、物理的・電子的に固定化、公表され、社会的な認知と利活用が可能であるもの。例えば、論文、図書、特許、教科書・教材、調査研究報告書、資料集、実験データ集、統計集、データベース・リポジトリ、工芸・有体物、その他これに類するもの

⁷ コンピュータシステム、ネットワークシステム及びこれらに一次的に関連するOS等のソフトウェア、研究システム・研究データ処理システム・業務システムのアプリケーション、教育・実験・調査・研究の現場での一次データ、総務・人事・文書、財務・資産、学務等の業務情報、広報情報、大学経営・運営情報など

⁸ 研究者情報データベース、シーズ集、活動評価用のデータベース（仮称）、大学広報物、大学情報データベース、大学広報データベース等、特定の効果を目的に加工されたやや情報。

情報の種類	内容
高次加工情報	研究者情報データベース、シーズ集、活動評価用のデータベース（仮称）、大学広報物、大学情報データベース、大学広報データベース等、特定の効果を目的に加工された情報
診療情報	附属病院、保健管理センター、臨床相談室において管理されているクライアント情報

(1)学内で生産された学術情報等

本学資金や設備・施設あるいは科研費などの公的資金を利用して学内構成員によって生産された①学術論文、②学位論文、③教育資料、④部局等が作成した紀要、報告書等、⑤教員執筆の単行図書、⑥附属図書館が収集したコレクション類、⑦教員データベース、⑧研究者や研究チームが研究過程で収集あるいは生成した一次資料、⑨その他図書館（運営）委員会が適当と認めたものを学術情報として取り扱う。

(2)学外における学術情報

①教育・研究に必要な印刷された図書・雑誌・新聞等、②電子ジャーナル、③電子ブック、④DVD、CDなどに記録されたデジタル資料、⑤本学の戦略的テーマに関連する各種資料、⑥その他図書館（運営）委員会が適当と認めたものを学術情報として取り扱う。

2. 学術情報の効果的・効率的利用体制の構築

科学技術立国を目指す日本において、大学が、学術情報をベースにすぐれた人材を育成し新たな価値と技術を創造し、社会の発展に寄与することは、社会に対する約束に他ならない。社会との約束を実現するためには、既述した「知のネットワーク」をハード・ソフト両面から整備して、学術情報の効果的・効率的利用体制を確立していく必要がある。

(1)教育・学習における学術情報活用体制の構築

学生が学術情報を活用し課題解決を図る学習スタイルを身につけることは、大学教育上必須の要件の一つである。

教育・学習における学術情報の活用には、学術情報を効果的に利用できるパスファインダーなどのツールの導入、図書館員参加型授業⁹の拡充や携帯端末によって学術情報をリアルタイムに活用した授業の展開、あるいは図書館におけるピアサポート体制の実現などによって、図書館と教育現場を有機的につないでいくことが必要である。

なお、学生が学術情報を積極的に活用していくには、何よりも、教員による指導が必要不可欠であり、また、最も果敢な方法である。

(2)研究における学術情報活用体制の構築

⁹ 将来的には図書館員が責任を持って担当する授業の開講を考えている。

附属図書館では、下図に示すような「鹿児島大学学術情報アーカイブス&データベース」（仮称）の構築を構想している。電子ジャーナルやe-booksなどのデジタル情報の利用環境に加え、学内において生産あるいは収集された多様な学術情報のデジタル化を広範囲に進め、それらを一元的に管理・利用できるシステムを構築することができるならば、本学における研究の飛躍的な進展が期待できる。

特に、本学の戦略的研究を協力にサポートするためには、予めキーワードと主要な検索先を登録しておくことで、アラート・サービスとデリバリー・サービスを受けることのできる利用環境を整えることが望まれる。

また、共同研究のための「情報共有サイト」を設けることで、研究を円滑に進め研究過程で生まれた学術的成果物を将来の研究に活かすことも容易となり、更には、研究の信憑性を保証するエビデンスともなる。

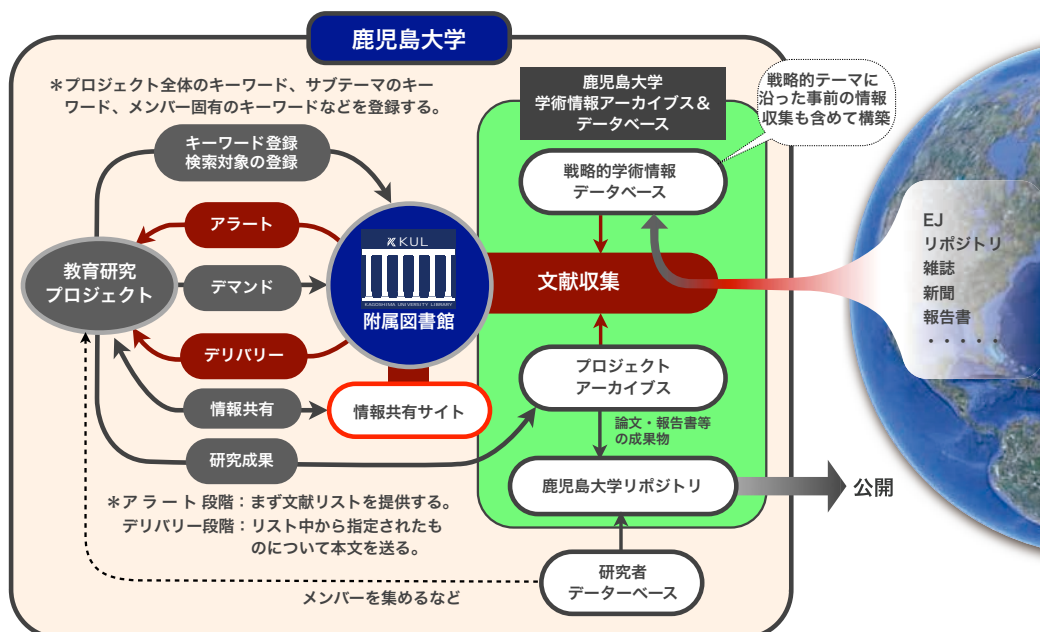


図 研究面における学術情報活用体制（想定図）

(3)学術情報のデジタル化と電子デバイスの活用

今日、知的生産活動にとって、電子的手段による学術情報の利用は当然のことであり、コンテンツのデジタル化は、学術情報の効果的・効率的利用にとって必須条件となっている。

新規購入書籍は、e-bookを中心にしていくことが望ましく、既存の紙媒体による図書や雑誌も著作権の許す範囲で可能な限り電子化していくことが望ましい。また、これまで学内で蓄積されてきた学術情報の電子化を進めていくことが重要である。学術情報の電子化とインターネットによる利用が拡大すれば、「いつでもどこでも図書館」に近づく。

(4)ホームページの高機能化

附属図書館が提供する多様な学術情報の利用に際して、デジタル化によって提供されるサービスは、附属図書館ホームページ（以下ホームページ）を統一的な入口にして、アクセス及び利用利便性を高めていく。ホームページには、単なる情報の発信機能ではなく、学術情報に関する各種サービスを利用して、課題解決するための「作業空間」としての役割と機能を持たせることが、求められるようになるだろう。

高度で使いやすい学術情報サービスとしては、仮想的なサブジェクトラブラリーの構築、ユーザーとの双方向コミュニケーション機能の強化、外部学術機関や行政組織等へのリンク、アマゾンなどの書籍流通業者へのリンク、学習マネジメントシステム(Learning Management System, LMS)及び学習成果進捗管理のためのe-ポートフォリオの導入・展開、コンテンツ・アナリシスなどの分析用ツールの導入など、課題解決の可能性を広げる新たなサービスの導入が検討される必要がある。

3. 学内共同利用施設等のデータベースの一元的管理

学内における主要な学術情報の生産現場は、大学院や学部とともに学内共同利用施設であるが、これらの場所で生産・収集された学術情報は、図書館で収集された学術情報とシームレスに利用できる体制が望ましい。そのため附属図書館は、これまで培ってきた学術情報の管理と運用のノウハウを下に、学共施設におけるデータベースの構築を支援し、共通の検索システムに組み込んでいくことで、研究の生産性を高めることが期待できる。

学共施設において蓄積される学術情報の多くは、本学が独自に保有する貴重な学術情報であり、個性輝く鹿児島大学を実現する上での重要な資源と言える。

4. 学術情報のバックアップ体制

本学で生産された学術情報や戦略的テーマに関して収集された学術情報は、本学の特徴を際立たせ強みとなる貴重な財産であり、特に学術論文以外のものは、外部機関において所蔵されていないものも多く、本学のみが所蔵している特殊な学術情報と言えるものが含まれる。それ故、それらの貴重な学術情報を、安全にバックアップする体制を築き上げることは、学術情報をベースに教育・研究を行う大学において、必要不可欠の措置と言える。

また、本学が農学系センター館として全国の高等教育研究機関に対して、重大な使命を負っていることに対しても責任ある対応をしておく必要がある。たとえ、大規模災害が起こっても学術情報を安全に保管し早急に利用できる環境を提供していくことは、本学附属図書館の重要な使命である。

■クリエイティブ・ライブラリーの強化策

クリエイティブ・ライブラリーは、図書館のコア機能に加え「ラーニング・commons」と「リサーチャーズ・commons」の2つの機能によって運用されていくことになるが、それらの機能を効果的ならしめるためには、いくつかの重点的な強化策が不可欠である。重点的強化策と現在の取り組み状況は、下記図に示すとおりである。

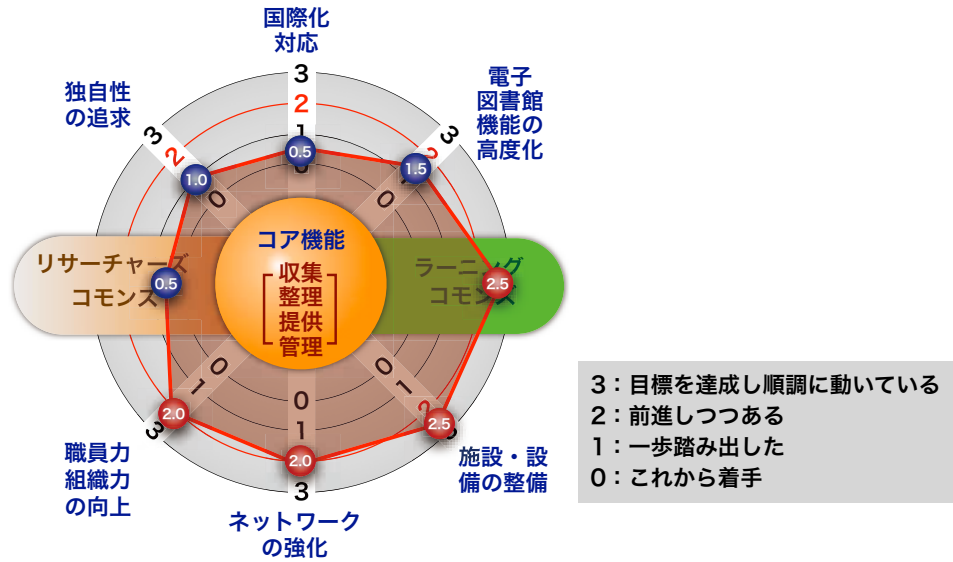


図 クリエイティブ・ライブラリー強化策の現状

1. 電子化の推進と「いつでもどこでも図書館」の実現

インターネットと電子デバイスの利用環境の整備及びデジタルコンテンツの充実は、大学の教育・研究の体制を質的に強化・変容させつつあり、クリエイティブ・ライブラリーの実現には、電子図書館的機能の強化は必須である。科学技術・学術審議会答申（H22）においても、「学習マネジメントシステム(Learning Management System, LMS)及び学習成果進捗管理のためのe-ポートフォリオの導入・展開と情報資源のナビゲーション機能との統合など、学習のための電子的環境が整備されるとともに、学習のための図書(教科書、参考図書等)を電子的に提供することが急務となってくる」と述べている。

附属図書館における電子化は下記例に示すように、教育・研究面でのサービスの高度化や組織の合理的な運営など多岐にわたる。これらのうちコンテンツのデジタル化は、「いつでもどこでも図書館」を実現する上での大前提であり、電子ジャーナルの安定的な利用環境を実現すると共に、電子図書の導入、既存の紙媒体によるコンテンツの電子化、学内共同研究施設のデジタルデータベースの構築にも積極的に取り組む必要がある。

<電子化の例>

- ①コンテンツの電子化と保存機能の高度化
- ②電子的手段による検索機能の強化
- ③ホームページの多機能化による教育・研究支援
- ④電子的手段によるコンテンツの加工・編集
- ⑤入退館管理や貸出業務の電子化
- ⑥ユーザー管理・利用統計の作成など

2. 国際化への対応力向上

日本社会における国際化が加速度的に進展しようとしている現在、大学の国際化対応は重点事項の一つである。国際化の進展に伴って、留学生の受入・送り出し、国際共同研究の拡大、外国人研究者の来学・滞在等の増加は必然であり、これに伴って外国人による附属図書館利用もまた増大する。彼らの来日目的をより効果的に実現できるように、附属図書館の外国語による利用環境を高めることが、本学に対する国際的評価を高めることにつながる¹⁰。

そのためには、①外国語テキストの充実、②戦略的テーマに関する国際的なコンテンツの収集、③外国語によるサービスの拡大（職員の外国語能力の向上、外国人スタッフの採用、外国語による表示・・・）などが必要で、これらの対策を実現するためには、留学生センターとの協力が不可欠であるが、図書館職員の中に外国語が堪能なスタッフを確保することもまた必要である。

3. 得意分野の形成

今日の図書館財政の縮小は、大学の学術情報基盤を弱体化させかねない危機的側面を持っている。この様な中で、少しでも附属図書館の機能強化を図ろうとするならば、得意分野に図書館の資源を集中し、不足する部分を他大学との協力によって相互に補完する方法を模索せざるを得ない。

本学においては、「環境」、「食と健康」、「島嶼」という3つの戦略的テーマを掲げて教育・研究を推進しようとしているが、附属図書館では、この分野における重点的な学術資料の充実によって教育・研究を支援する体制を強化していくことが求められる。また国内における農学系センター館としての役割と機能を強化して、全国的にもこの分野における「ハブ図書館」として中心的な役割を果たす必要があろう。

¹⁰ 科学技術・学術審議会答申（H22）では、「外国人留学生受入れの推進、大学の国際競争力向上の観点から、大学図書館も蔵書コレクション構築や館内表示などの面で適切に対応していく必要がある。特に英語、や中国語、韓国語などを母国語とする留学生が多い機関にあつては、これらの言語に堪能な大学図書館職員の確保についての検討が必要である。」と述べている。

4. 職員力・組織力の向上¹¹

質の高いサービスを提供し関係者から信頼と支持を獲得するには、附属図書館員の意欲・技能・ホスピタリティの向上を抜きには実現し得ない。これからの図書館職員は、附属図書館のコア機能の円滑な運用だけでなく、ユーザー満足度の高いラーニング・コモンズとリサーチャーズ・コモンズを実現していかなければならない。

(1) 図書館職員に求められる技能

クリエイティブ・ライブラリーを実現していくためには、図書館員は、司書として求められる基礎能力に加え、質の高い学術情報リテラシー教育を図書館員自らが実務家教員として開講できるだけの専門性、ユーザーとのコミュニケーション能力、企画力、提案力、プレゼンテーション能力など、新たな知識と技能を身につけていくことが求められる。以下に、獲得すべき技能の例を示した。

①**状況の分析・課題解決力**：図書館が置かれた全体的状況について適確な理解と判断をおこない、課題解決の方向と具体的な解決策を発見し、計画的に実行できること。

②**コミュニケーション能力**：ユーザーとの意思疎通を図り、彼らの要求に適確に答えていくためには必須の能力である。また、プレゼンテーション能力を高めることで、使いやすい学術情報の提供が可能となる。

③**国際対応力**：外国語が理解できるだけでなく、留学生への対応、海外の図書館との交渉力、国際的動向の把握力などが必要であろう。

④**協働能力**：学内外における他組織との社会的ネットワークの形成と協働を促進することで、附属図書館の機能強化と社会的責任を果たしていくことにつながる。

⑤**創意工夫の実践力**：常に現状を良くしようとする意識を持って改善のアイデアを実践することが、図書館の質的向上にとって有効である。

⑥**教授力**：図書館員自らが実務家教員として、学生の図書館活用、学術情報活用の基礎的スキルを高めるための授業を引き受けることのできる能力と体制を整えていくことが求められる。

⑦**情報技術活用力**：ハイブリッド型図書館を実現し、ユーザーに優れたサービスを提供するためには、インターネット、電子デバイスの技術に精通していることが、組織としては必須である。

⑧**組織管理能力**：大学の運営・経営、教育・研究、社会貢献の諸活動を俯瞰的に分析・概観し、大学本部、諸部局等との良好な信頼関係を構築

¹¹ 科学技術・学術審議会答申（H22）では、「学生は、コンテンツの分析と選択のスキルは必ずしも十分ではない。学生が大学を卒業して以降も生涯にわたって自ら学習していくためには、課題解決のために、電子情報資源、印刷物を含めて、適切な情報を得るために各種ツールを使いこなし、得られた情報を評価し、その成果を分かりやすく表現し、発信する能力を身に付けることが求められている。図書館はその様な情報スキルを身につける実践の場となるべきであり、図書館員は、カリキュラムの開発や実施を教員と協同して行うだけでなく、自らが教員を兼任するなどして、直接授業を担当することも視野に入れるべきである」としている。

し、大学当局と一体となって将来に向けた図書館の姿を企画・提案し管理する能力も求められる。

(2)職員の研修・スキルアップ

上記能力は全ての職員が有するのではなく、各職員は得意分野を強化することで、組織としてバランスの取れた人材を確保していくことが重要である。幹部職員は以上のことを念頭に、目的意識と計画性を持って職員の研修機会と実践（活躍）の場を作り出し、職員力・組織力を強化しなければならない。附属図書館としては、以下のような試みを実践中であり、すでにその成果が現れ始めている。

①**研修機会の確保と研修結果の共有**：研修を受けた場合は、書面による報告に加え報告会を開催し、研修成果を他職員と共有する。年初と夏期休業期間一度、全図書館員を対象に館長講話、部長講話などによって、課題や目標の再確認などの意識啓発を行う。

②**係横断的なタスクフォースによる課題の解決**：通常業務とは別の新規事業を、スピード感を持って効果的に遂行ため、職員の特性を活かしたタスクフォース方式を中心に行う。

③**イベントの独自企画によるユーザーへの働きかけ**：新入生歓迎、オープンキャンパス、秋の読書月間などを中心にしたイベントの開催などを行い、ユーザーへに対して実践的に企画・提案することのできる力を高める。

④**教員との協働の推進**：教員インタビューの実施、貴重書図録作成への積極的な関与や科研費などのプロジェクトへの参加などを積極的に推進し、研究遂行のノウハウを学んでいくことで、より適確な教育・研究支援サービスの提供が可能となる。

⑤**情報リテラシー教育への参加**：附属図書館職員は、現在の所、共通教育における情報活用基礎教育の講師として参加すると共に出張講習会なども開催しているが、教員との協働によって教育・研究能力の向上に努め、将来的には実務家教員として、学生の学術情報活用スキルの向上を図るための授業を、主体的に責任を持って開講することを目指す。

⑥**国際対応力の向上**：国際化への対応は本学全体の最重要課題の一つであり、全学の職員を対象にした定期的な語学研修制度の充実を図り、そこに図書館職員が計画的に参加して外国語によるサービスを提供できるようにしていくことが必要である。国際的な連携においては、海外の大学図書館との連携も視野に入れ、図書館職員の外国語による交渉力の向上が求められる。

5. 知の生産現場としての施設・設備の整備

附属図書館は、平成20年度からの3年間で計画的整備がなされ、現在では、本学と同規模の国立大学法人の附属図書館とは肩を並べられるようになってきた。しかし、いくつかの課題が残されている。

(1)ハイブリッド空間への移行

附属図書館は、単なる閲覧や貸出の場ではなく、課題解決と創造的な「知的生産の現場」として活用されなければならない。現代社会では、人々の知的生産活動において、インターネットとパソコンその他の電子デバイスの利用は必須条件であり、これからもこの傾向は加速される。附属図書館においては、インターネットとノートパソコンその他の電子デバイスを自由かつ高度に利用できる環境を、早急に整備していくことが大きな課題の一つである。

科学技術・学術審議会答申（H22）においても、「学習マネジメントシステム(Learning Management System, LMS)及び学習成果進捗管理のためのe-ポートフォリオの導入・展開と情報資源のナビゲーション機能との統合など、学習のための電子的環境が整備されるとともに、学習のための図書(教科書、参考図書等)を電子的に提供することが急務となってくる」と述べている。

今後、附属図書館は、電子機器を自由かつ高度に使えるエリアを整備・拡大し、一方で、集中して閲覧、思考することが可能なブース形式のエリアを棲み分ける方向で整備していく必要がある。

(2)交流・コミュニケーション・スペースの充実

クリエイティブ・ライブラリーの本質は、アカデミックな出会いと知的コミュニケーションを活性化させることにある。特に異分野との交流は創造性を刺激し、ユニークな価値の発見と研究を推進していく上で重要であると考えている。

本学は総合大学として多様な学問分野を擁しており、その特性を活かしたクリエイティブ・キャンパスを実現していく必要がある。研究者にとって、研究に先立ち、あるいは研究のプロセスにおいて、異分野の研究者との出会いと自由な雰囲気の下での知的コミュニケーションを通して、独創的なアイデアを得る場は重要である。

学術情報が集積する施設でありキャンパスの中央に位置する附属図書館において、多様な人々がアカデミックな環境と自由で寛容な雰囲気の中で、交流・コミュニケーションできる場と機会を作り出していく工夫をしていかなければならない。

(3)エコ・ライブラリー

「いつでもどこでもライブラリー」を実現し運用していくためには、多量の光熱水を消費することにつながる。図書館を利用することは大学構成員にとっての基本的な権利であり、地域の人々にとっても重要なサービスと言えるが、開かれた図書館となるためには、セキュリティ対策の強化とともに開館時間の延長が必要となり、必然的に光熱水料の増大を伴うことになる。

本来の附属図書館の機能を損なわず「開かれた図書館」を実現するためには、現在の照明設備は致命的な問題を抱えている。これからの主流となるであろうLEDなどの省エネ・長寿命型の照明器具に比べ、現在の蛍光灯による照明は、電気代、耐用年数ともに大きく劣っている。現在、切れた蛍光灯の取り替えに毎朝30分から1時間かかり、通常業務へのしわ寄せも無視できない状態になっている。現中央図書館ができてから既に13年が経過し、蛍光灯の安定器も劣化しつつあり、今後さらに交換などの維持経費が増大することを考えれば、早急にLEDなどの省エネ・長寿命型の照明器具に切り換えていく必要がある。

また、屋上への太陽光発電パネルの設置も、附属図書館の電気代の節減にとって長年の懸案事項である。附属図書館の屋上は、学内建物の中で一番の面積を有しているが、それ故、真夏の照り返しと蓄熱によって館内の冷房効率を低下させている。屋上の多くを太陽光発電パネルで覆うことで、冷房効率を高め電気代を節約することが期待でき、更にはCO₂排出抑制にも貢献できる。

■安定的財政基盤の確立

科学技術・学術審議会答申（H22）では、大学図書館の財政基盤について、「厳しい大学財政の局面にあつては、大学予算の効率的な執行、選択と集中による予算の重点配分が一層加速されるであろう。このような状況の中で、大学図書館が大学の枢要な学術情報基盤であるとの認識を踏まえれば、安定的な財政基盤の確立が急務である」と、その重要性を指摘している。

附属図書館が真にクリエイティブ・ライブラリーとしての機能強化とサービスアップを図り、本学における教育研究の質的向上をサポートするためには、機動的な事業展開ができる財源確保の仕組み作りがどうしても必要である。例えば、学生数を積算根拠に、授業料等（H21年度予算総額64.3億円）の5%（総額3.2億円）を、学生用図書購入やサービス費等に充当するなどの措置が考えられる。

以下に、財源確保の重要性について述べた科学技術・学術審議会答申（H22）の要約を記載する¹²。

(1) 安定的な財政基盤の確立

厳しい大学財政の局面にあつては、大学予算の効率的な執行、選択と集中による予算の重点配分が一層加速されよう。このような状況の中で、大学図書館が大学の枢要な学術情報基盤であるとの認識を踏まえれば、安定的な財政基盤の確立が急務である。

①大学の質向上と競争力の強化

大学図書館の機能を維持・向上させることを通じて、大学の教育研究の質を一層高め、さらには国際的な競争力を強化するためには、所要の図書館予算が確保される必要がある。

②実績を通じた信頼の獲得

大学予算全体の一定の割合を共通経費として図書館経費に充当するといったシステムを構築し安定した財政基盤を確立するためには、大学図書館が、学内諸組織から、大学の学習・教育・研究を支える重要な学術情報基盤であるとの信頼を得ることが前提である。

③電子ジャーナルの購入に係る経費

ほぼ定常的に増加し続ける経費の確保には、全学共通経費化や競争的資金の間接経費の充当を図る一方で、複数年契約方式や支払方法の工夫などによりその縮減を図るなど、戦略的な予算の確保について検討する必要がある。

④外部資金の導入

各大学図書館の特色ある独自のプロジェクト(たとえば、所蔵資料のデータベース化とその公開、学習支援の積極的な遂行、利用者サービス

¹² 答申の要約ではあるが趣旨を変えない範囲で、一部本学の実情に併せて加筆した部分がある。

の新しいモデルの構築、地域・社会・他機関との連携など)などにより、競争的外部資金の獲得にも一層努めなければならない。

⑤裁量権の付与

全学的な図書館活動を一体的に管理・運営するために必要な経費総額が、大学本部から本館(中央館)に直接配分されることが重要であり、用途について効率的で可視的な執行の下に一定程度の裁量権が館長に付与されることが必要である。



鹿児島大学附属図書館



鹿児島大学附属図書館概要2012
平成24年6月発行

編集・発行：鹿児島大学附属図書館
〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21番35号
TEL 099-285-7415
<http://www.lib.kagoshima-u.ac.jp/>